

市民（18歳以上）

アンケート調査から読み取れる声(抄)

問 10-2 地域活動に参加していない理由

- ・仕事を持っているから時間が無いが、地域の情報も無い

問 13 地区福祉推進会の周知度

- ・「知っている」は減少、「知らない」が増加

問 14(1) 隣近所の困っている世帯に手助けできること

- ・「声かけ」と「話し相手」

問 14(2) 隣近所の人に手助けしてもらいたいこと

- ・「手助けして欲しい」は減少し、さらに「手助けはிரらない」が増加

問 19 日常生活での困りごとの内容

- ・「経済的なこと」「介護のこと」

問 20-1 日常生活の困っていること

- ・「家族」「親戚」が減少し、「市役所」「民生委員」「医師」が増加

問 22 誰もが住み慣れた地域で生活するための手助けは、誰が行うべき

- ・「家族」「地域」が減少し、「事業者」が増加

問 23（新規設問） 災害時に住民が支えあうためには何が必要か

- ・「福祉マップ」「自主防災組織」「施設や事業者との連携」

問 24（新規設問） 地域福祉について話し合いたいテーマ

- ・「支え合い活動」「災害時の対応」

問 25 ボランティア活動の経験

- ・「ない」が減少し、「ある」が増加

問 26 経験のあるボランティア活動

- ・「障害者を対象としたボランティア」が増加

問 27 ボランティア活動に参加したきっかけ

- ・「自分のため」が減少

問 32（新規設問） 子どもたちに対する福祉教育について

- ・「学校教育の中で学ぶ」「家庭の中で親から学ぶ」が半数以上、「地域活動の中で」が 4 割以上

問 33 福祉や医療に関する情報の入手先

- ・「広報」「回覧板」「新聞」「テレビ、ラジオ」「家族や知人」が減少、「福祉もりおか」「インターネット」が増加

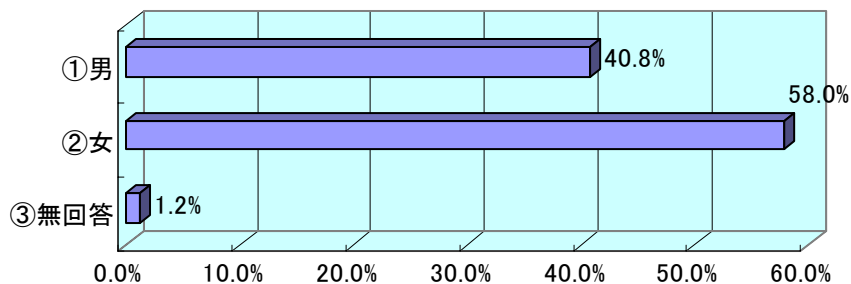
問 36 住み慣れた地域で安心して生活していくために必要なこと

- ・「社会保障制度の安定を図る」「福祉や保健に関する情報提供を充実させる」「支援を必要とする人の多彩な希望に応えられるような豊富な種類のサービスを用意する」

■回答者の属性

問 1 性別

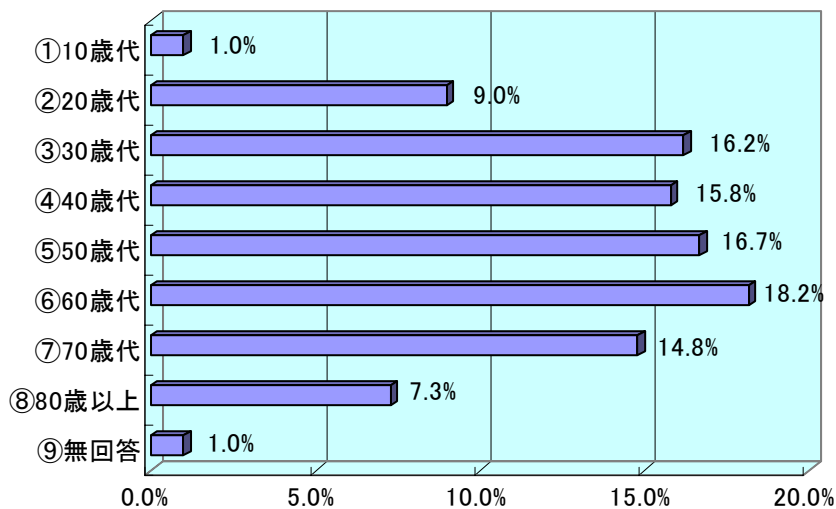
回答者の総数は 1,107 人で、女性が 58.0%、男性が 40.8%で女性が男性を 17.2 ポイント上回っています。



(N : 1,107)

問 2 年齢

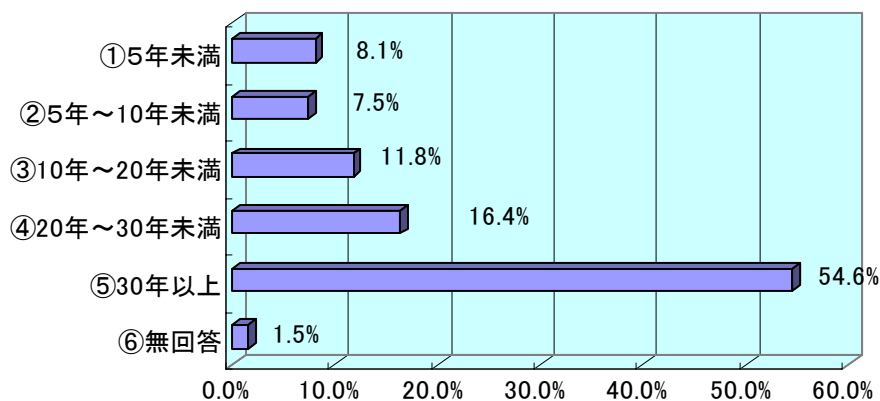
回答者の年代は、60 歳代が 18.2%で最も多く、次いで多い順に 50 歳代、30 歳代、40 歳代となっています。



(N : 1,107)

問 3 居住年数

盛岡市に住んで通算した居住年数では、「30 年以上」が回答者の半数以上の 54.6%で最も多い回答となっています。

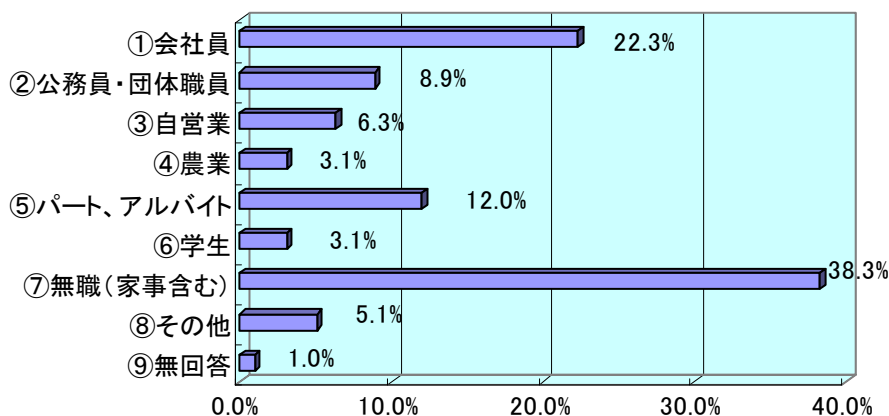


(N : 1,107)

問 5 職業

《職業》

回答者の職業では、「無職（家事含む）」が 38.3%で最も多くなっています。次いで、多い順に会社員、パート・アルバイト、公務員・団体職員となっています。

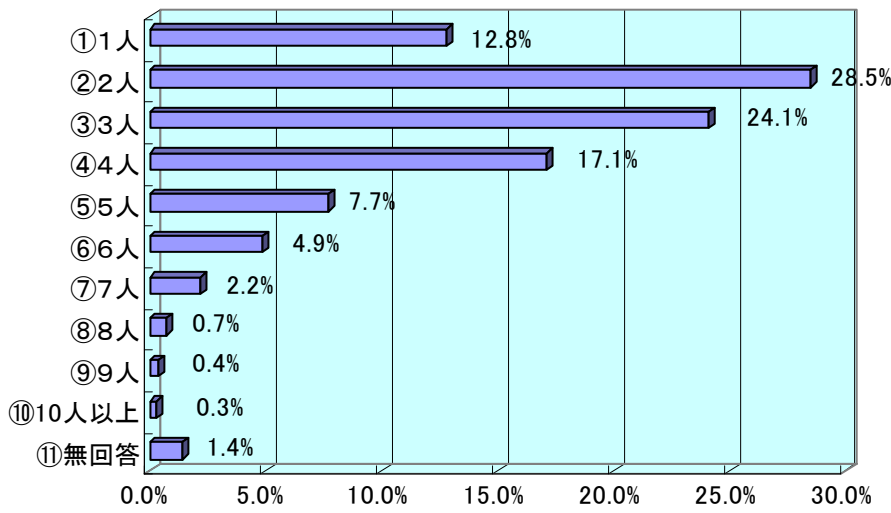


(N : 1,107)

問 6 同居している家族の人数

《同居している家族の人数》

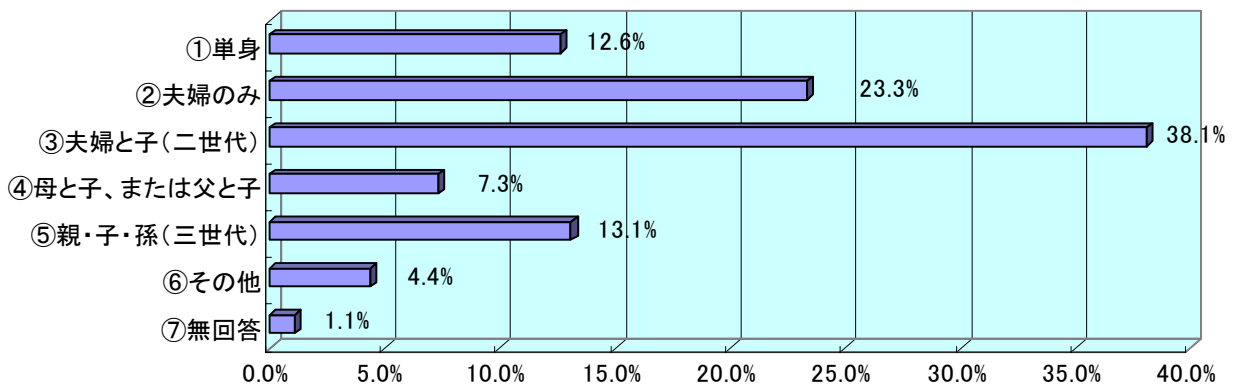
回答者の同居している家族数では、「2人」が最も多く、28.5%となっています。次いで、多い順に「3人」、「4人」、「1人」となっています。



(N : 1, 107)

問 7 暮らしている家族形態

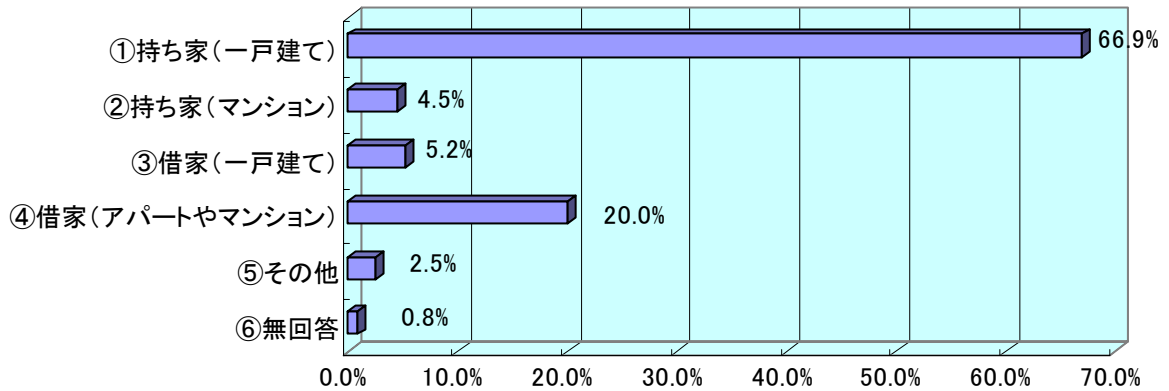
現在、暮らしている家族形態では「夫婦と子（二世代）」が 38.1%で最も多い回答となっています。



(N : 1, 107)

問 8 暮らしている住宅の種別

現在、暮らしている住宅の種別では「持ち家（一戸建て）」が 66.9%で最も多い回答となっています。

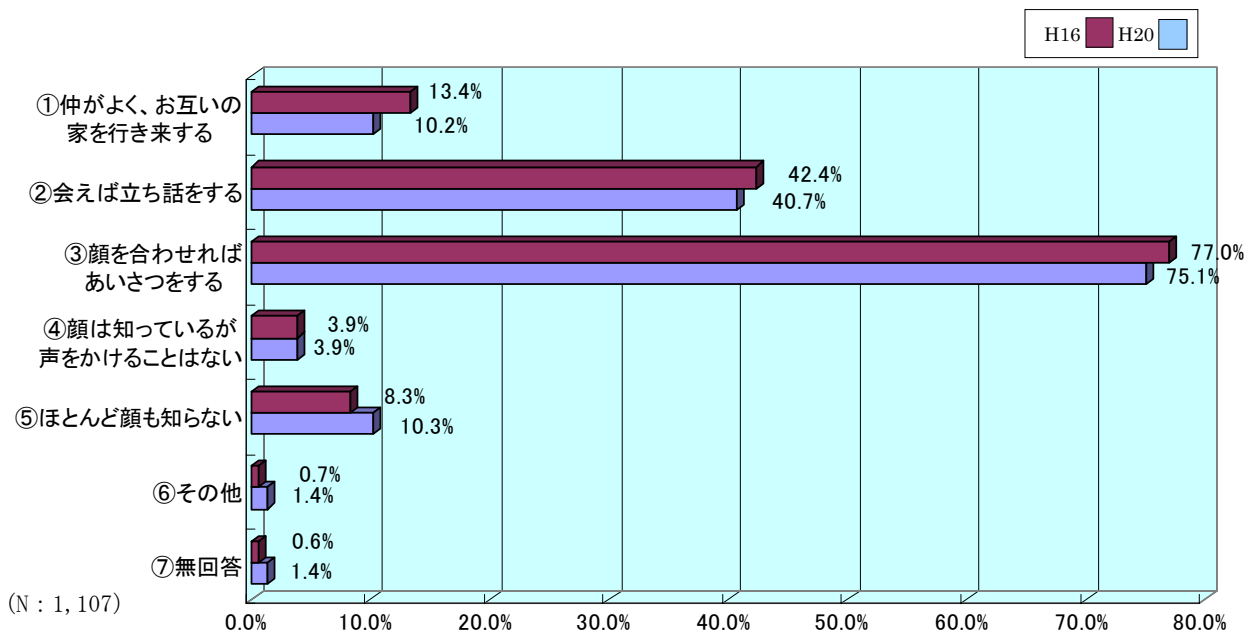


(N : 1, 107)

■地域との関わりについて

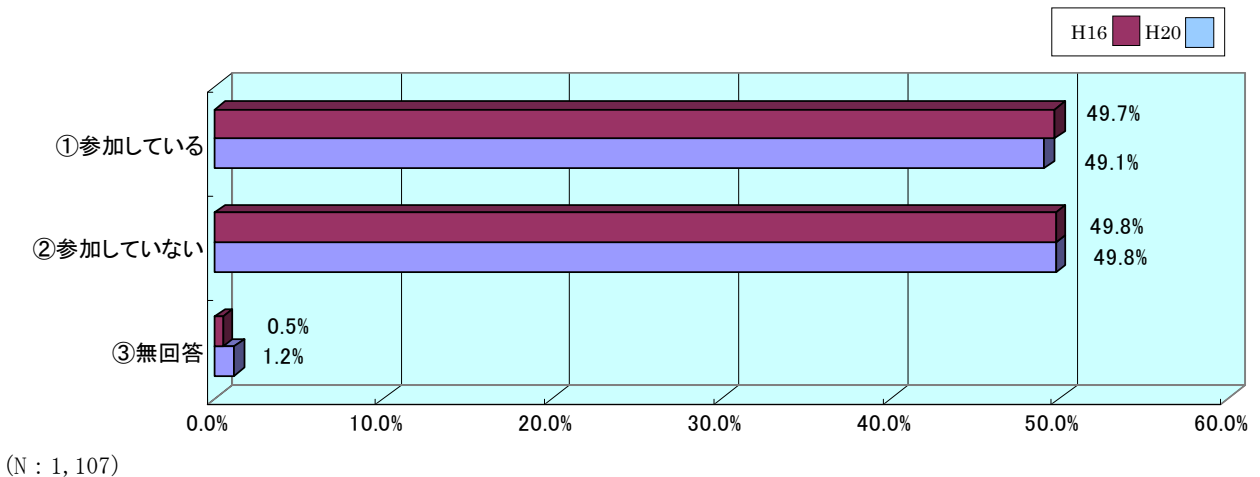
問 9 地域の人との関わり(2つまで)

地域の人とどのような付き合いをしているかを見ると、「顔を合わせればあいさつをする」が 75.1%と約 5 人に 4 人の割合となっています。次いで「会えば立ち話をする」が 40.7%と約 5 人に 2 人の割合となっています。



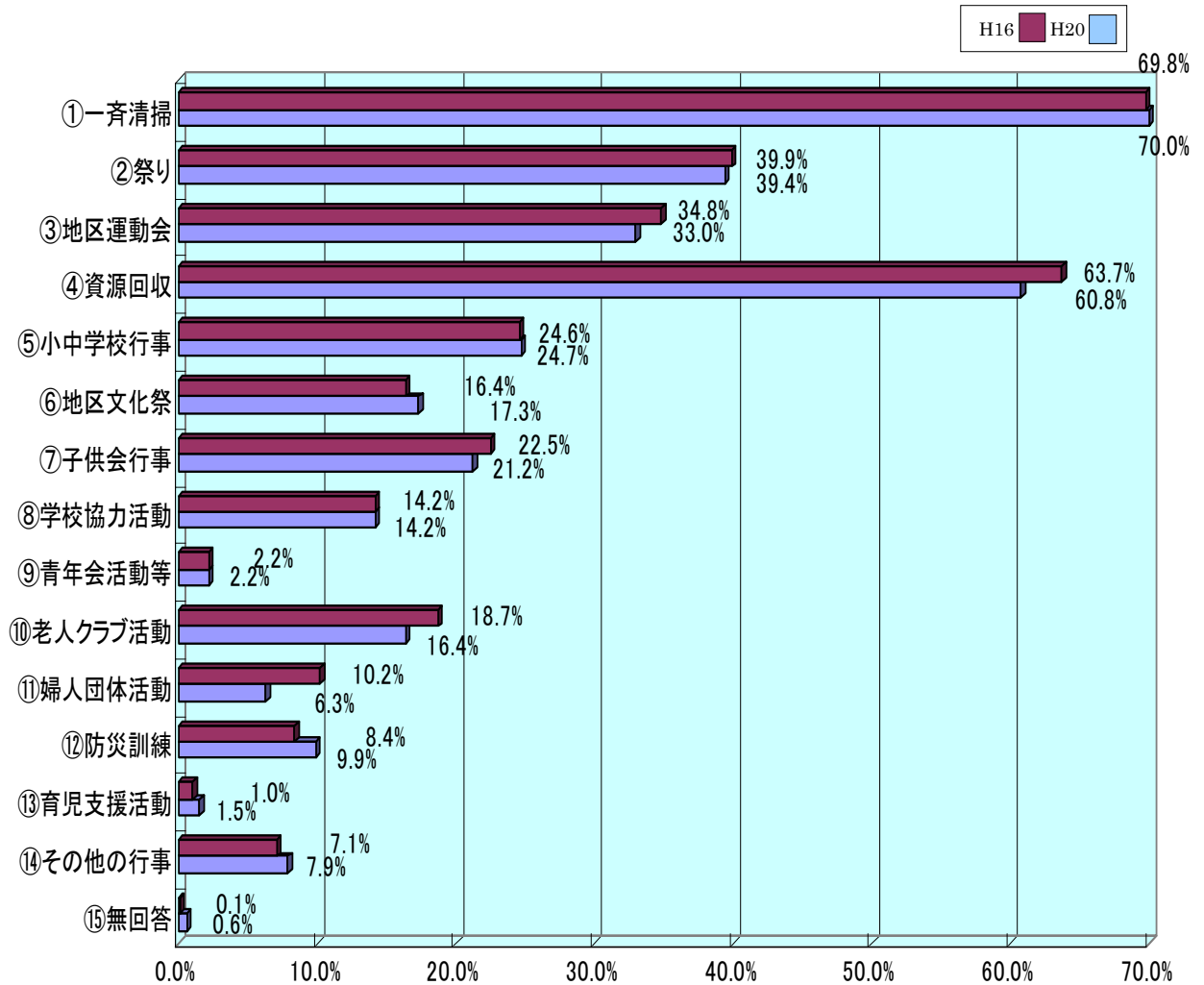
問 10 地域活動の参加状況

地域活動の参加状況を見ると、「参加している」が 49.1%、「参加していない」が 49.8%でほぼ同じ割合となっています。



問 10-1 参加している地域活動（あてはまるものすべて）

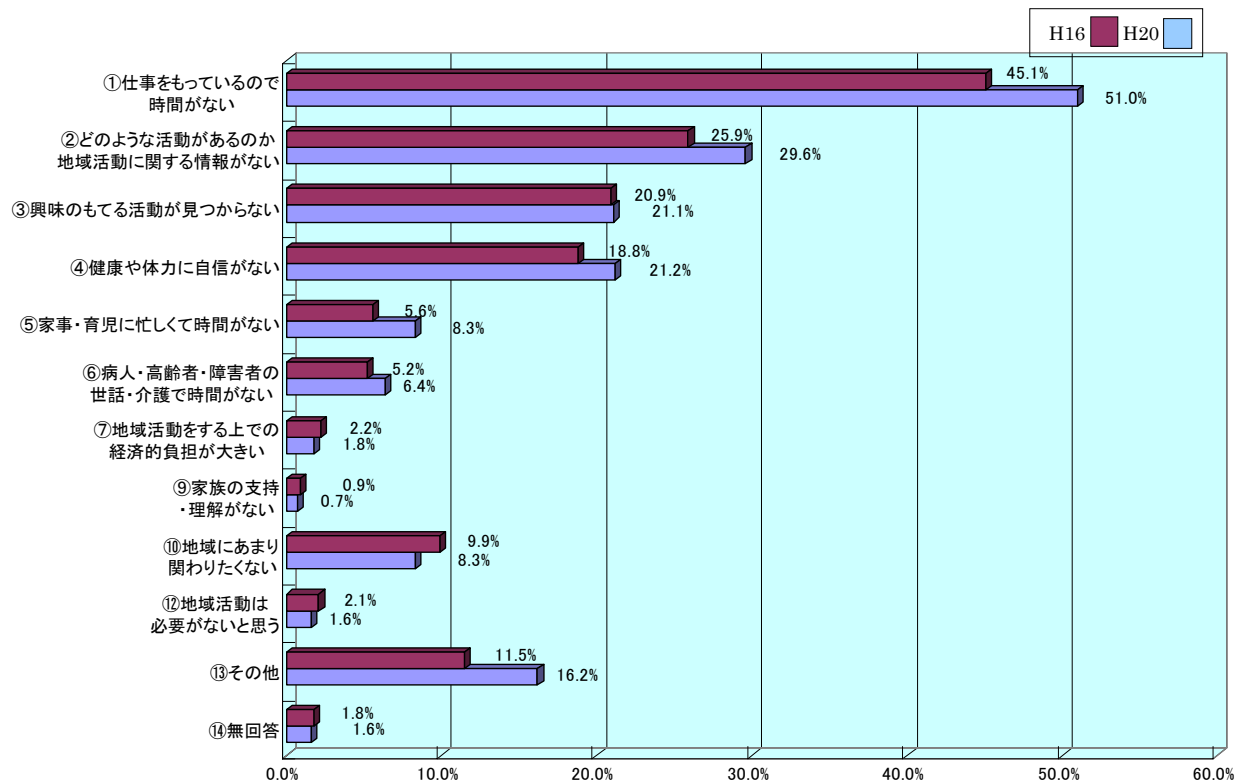
地域活動に参加していると回答した 543 人の参加している地域活動をみると、上位の「一斉清掃」、「資源回収」は、参加している割合が 60%以上と他の地域活動と比較して特に参加率の高い活動となっています。



(N : 543)

問 10-2 地域活動に参加していない理由(3つまで)

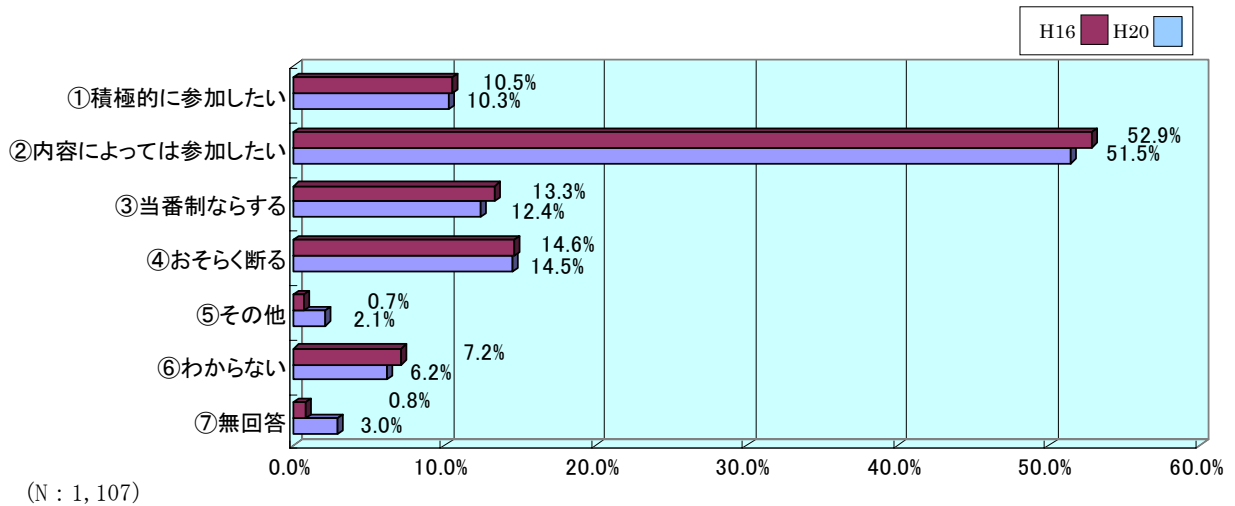
地域活動に「参加していない」と回答した 551 人の参加できない理由では、「仕事をもって
いるので時間がない」が 50.9%、「どのような活動があるのか地域活動に関する情報が
ない」が 29.5%となっています。



(N : 551)

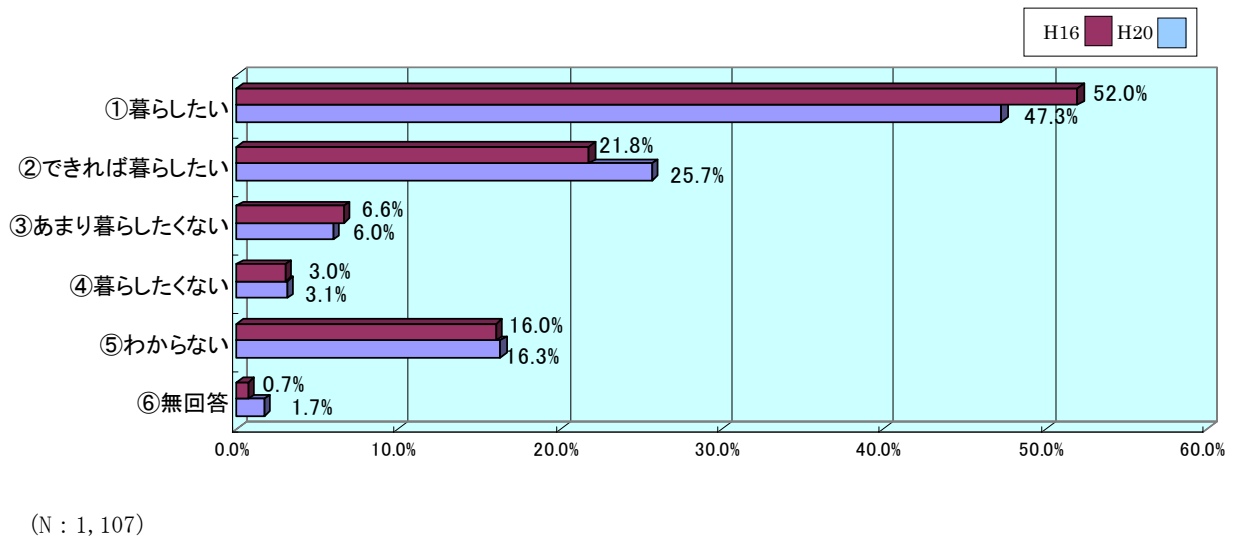
問 11 今後、地域活動への参加依頼への対応

今後、地域活動への参加の依頼があった場合の対応を見ると、「内容によっては参加したい」と回答した割合が 51.5%と最も多い回答となっています。



問 12 将来も現在の地域で暮らし続ける意向

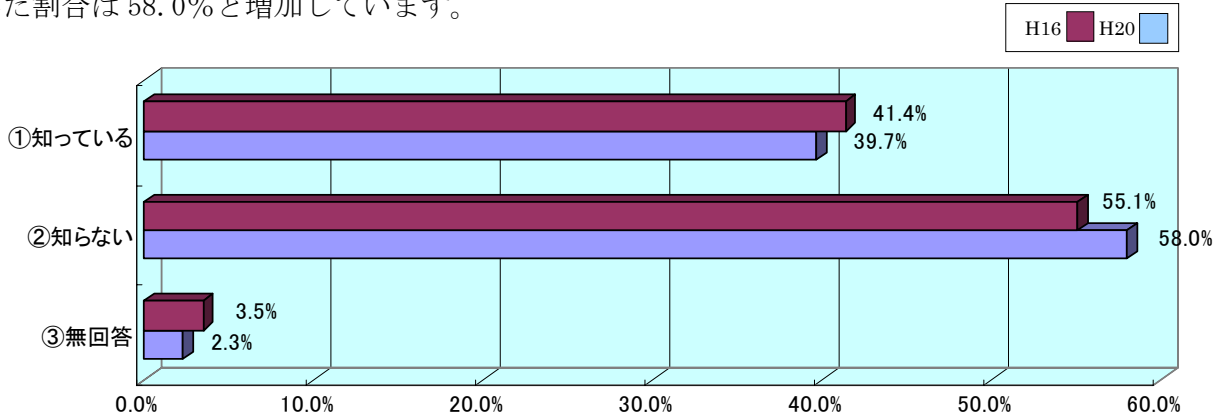
将来も現在の地域で暮らしていきたいと思うか尋ねたところ、「暮らしたい」が 47.3%、「できれば暮らしたい」が 25.7%の回答があり、合計すると 73.0%が今の地域で暮らしたいと回答しています。



■地域の支え合いに関する考えについて

問 13 地区福祉推進会の周知度

市内で地区福祉推進会が組織され地域福祉活動を行っていることを知っているか尋ねたところ、前回調査に比べると「知っている」と回答した割合は 39.7%と減少し、「知らない」と回答した割合は 58.0%と増加しています。

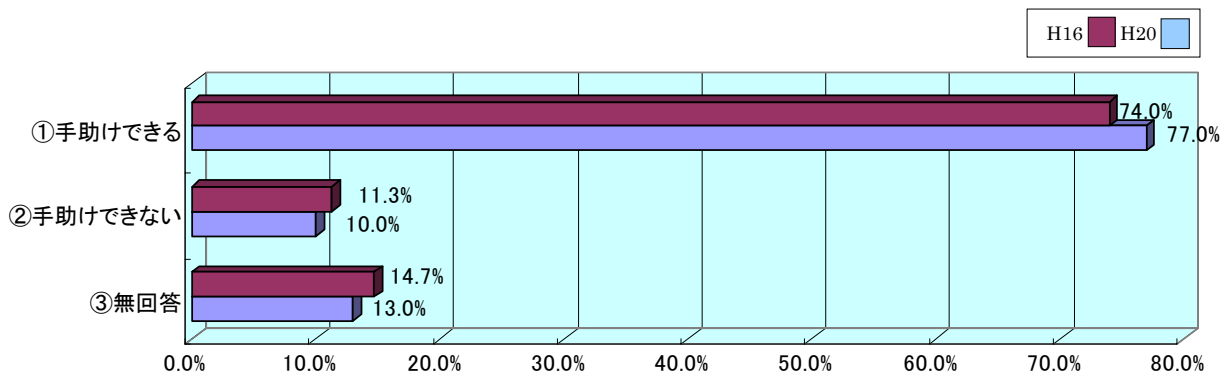


(N : 1, 107)

問 14 (1) 隣近所の困っている世帯に手助けできること

隣近所の人に手助けするとしたらどんなことができるかを見ると「安否確認の声かけ」が 77.0%と最も高くなっています。

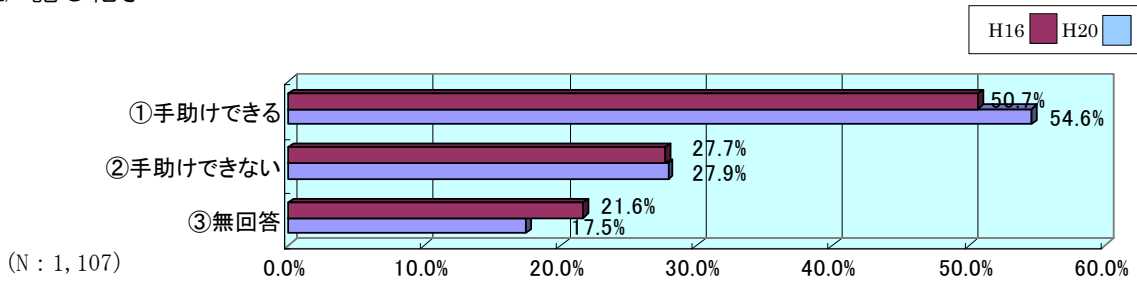
(1) 安否確認の声かけ



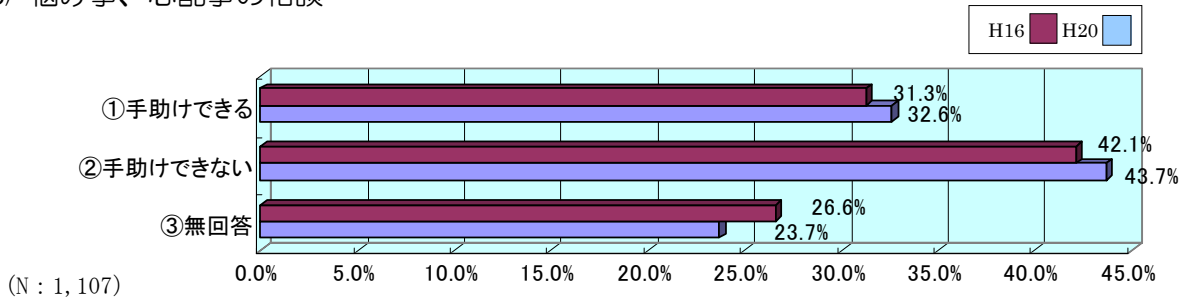
(N : 1, 107)

地域福祉計画アンケート調査（市民 18 歳以上）

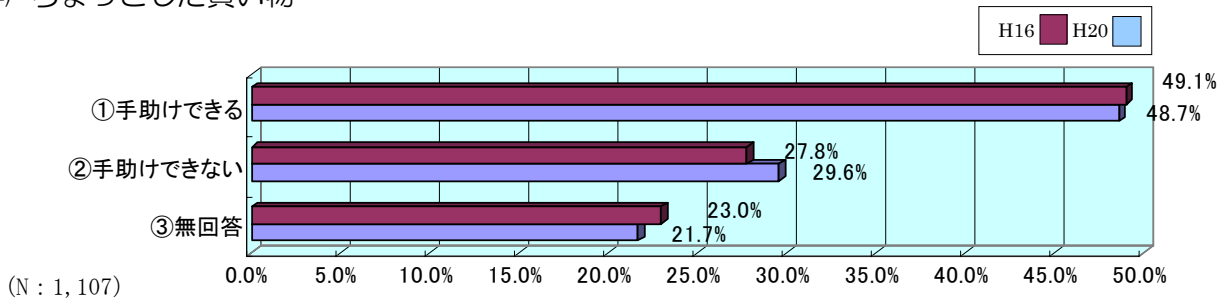
(2) 話し相手



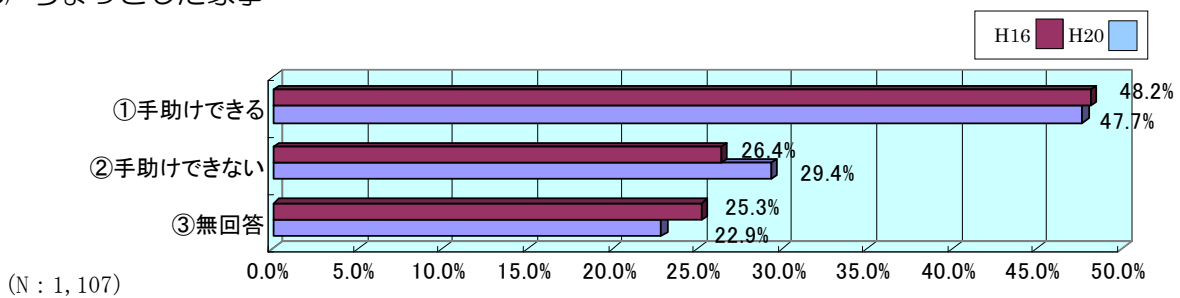
(3) 悩み事、心配事の相談



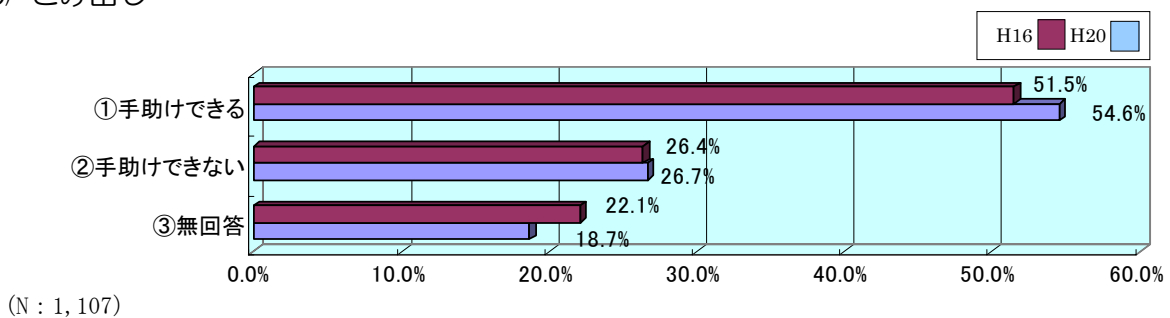
(4) ちょっとした買い物



(5) ちょっとした家事

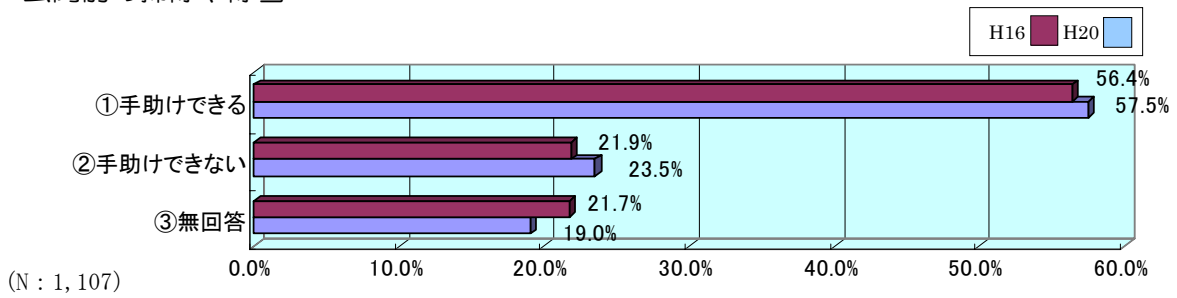


(6) ごみ出し

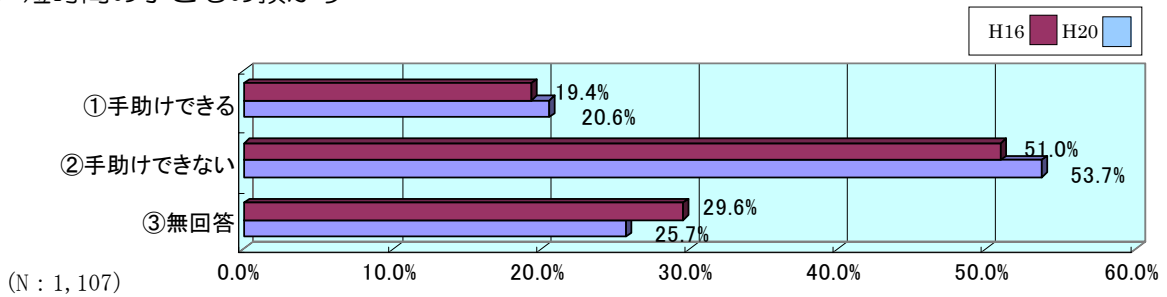


地域福祉計画アンケート調査（市民 18 歳以上）

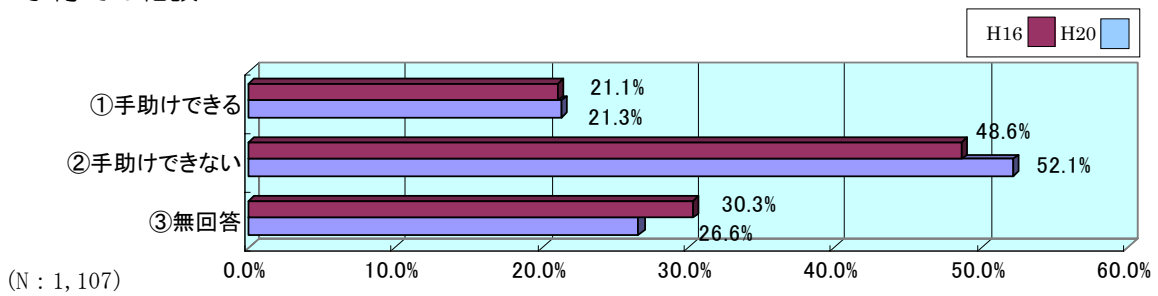
(7) 玄関前の掃除や除雪



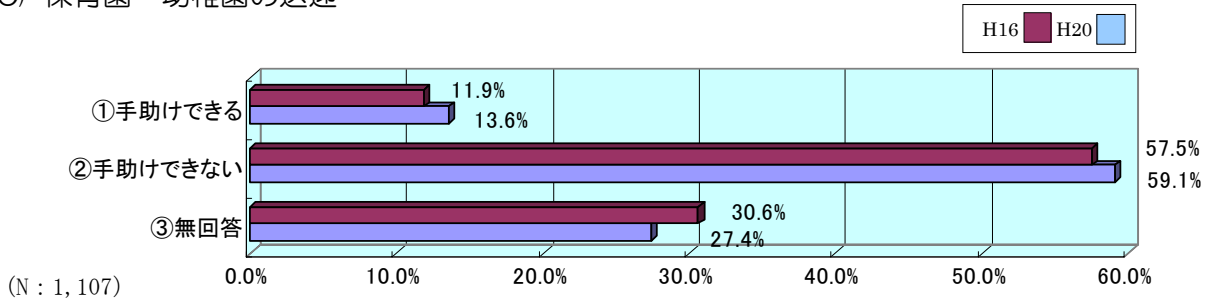
(8) 短時間の子どもの預かり



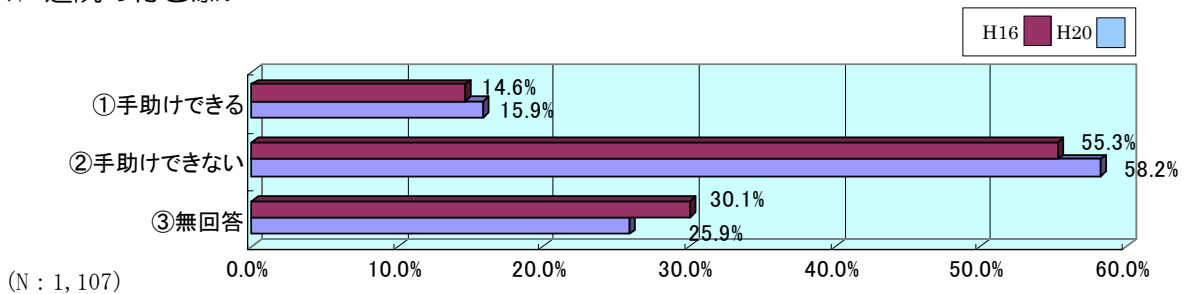
(9) 子育ての相談



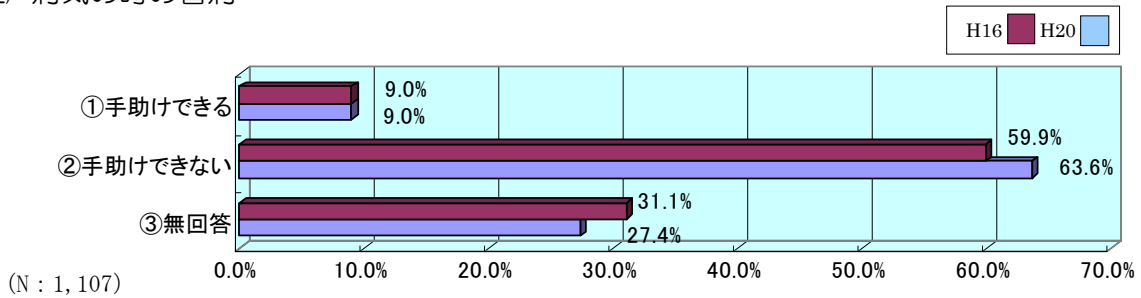
(10) 保育園・幼稚園の送迎



(11) 通院の付き添い



(12) 病気の時の看病



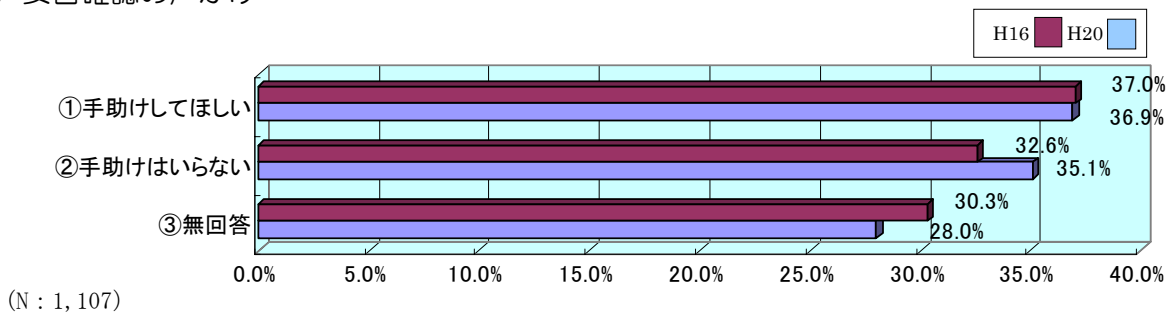
問 14 (2) 隣近所の人に手助けしてもらいたいこと

隣近所の人に手助けしてもらおうとしたらどんなことをして欲しいかを見ると、「手助けしてほしい」項目で最も高い項目は、「安否確認の声かけ」が 36.9%で「手助けできること」と同様最も高くなっています。

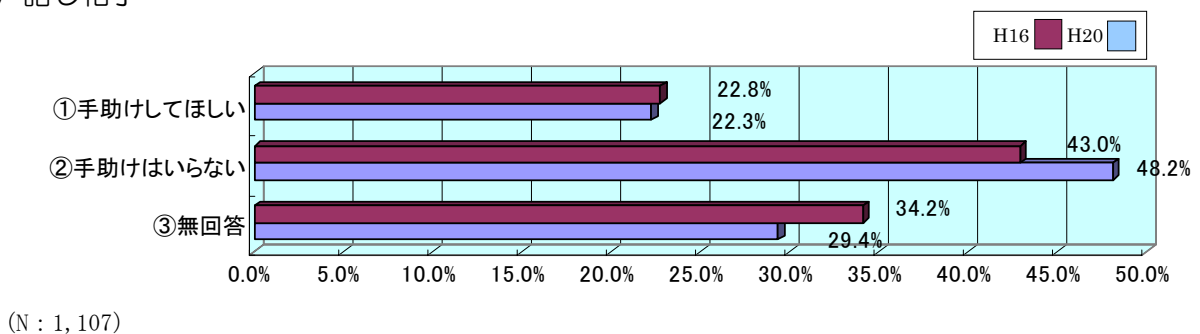
「安否確認の声かけ」以外で「手助けしてほしい」項目では、「玄関前の掃除や除雪」が 25.8%、「話し相手」が 22.3%となっているほかは 20%未満となっています。

また、「手助けはらない」項目では、「手助けしてほしい」で上位にあげられた「安否確認の声かけ」、「玄関前の掃除や除雪」、「話し相手」の項目以外は、ほぼ 50%以上が「手助けはらない」と回答しています。

(1) 安否確認の声かけ

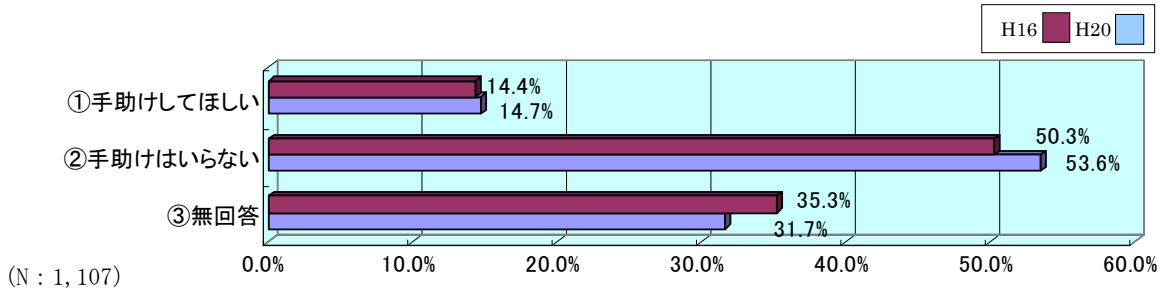


(2) 話し相手

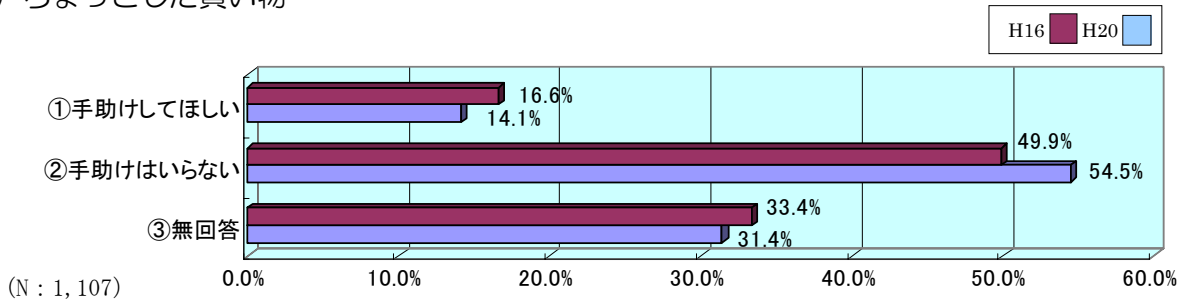


地域福祉計画アンケート調査（市民 18 歳以上）

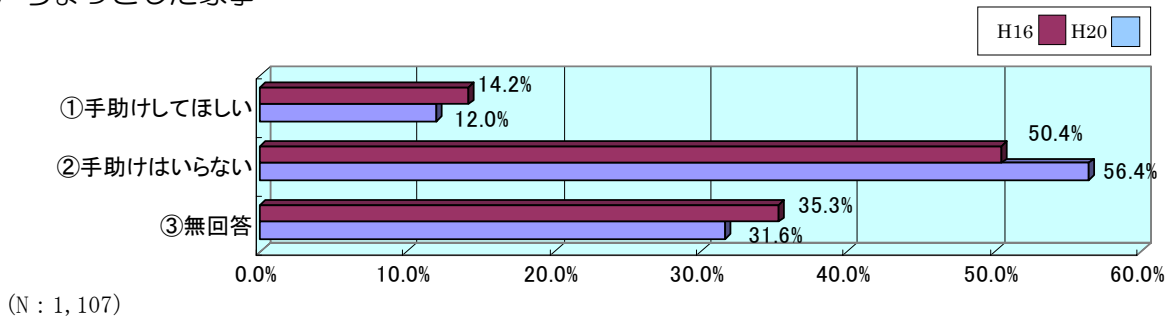
(3) 悩み事、心配事の相談



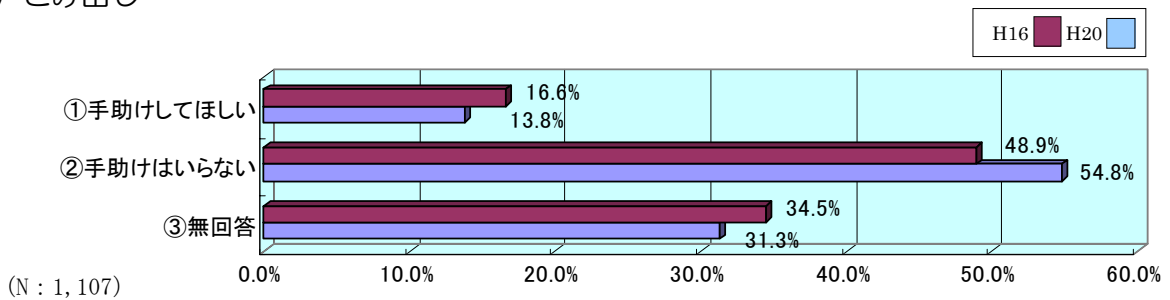
(4) ちょっとした買い物



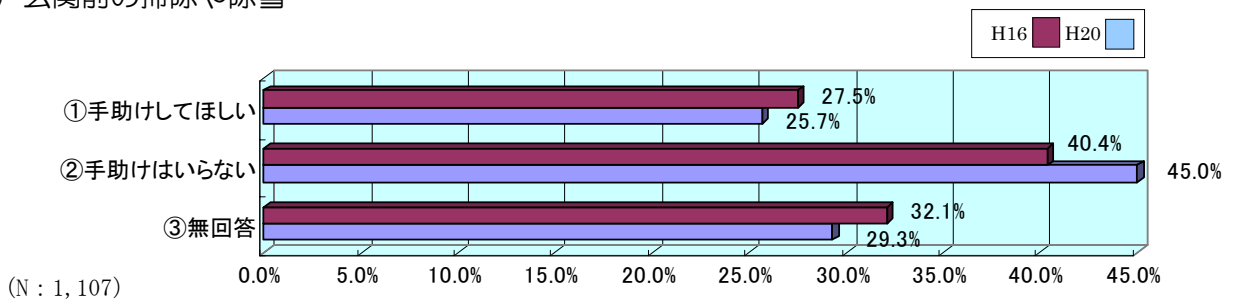
(5) ちょっとした家事



(6) ごみ出し

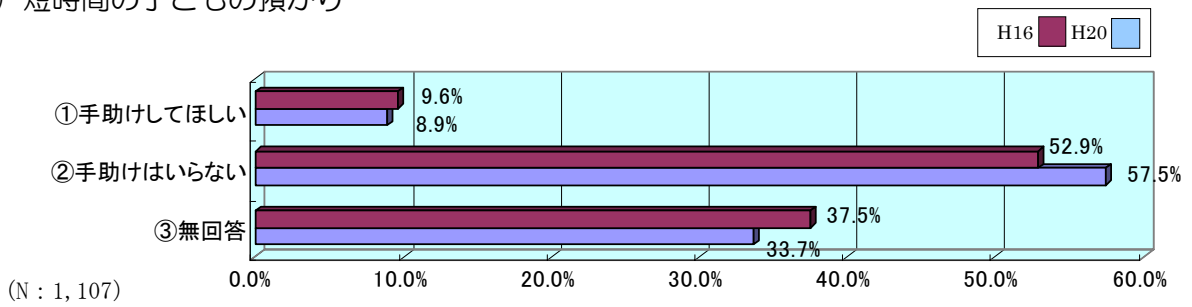


(7) 玄関前の掃除や除雪

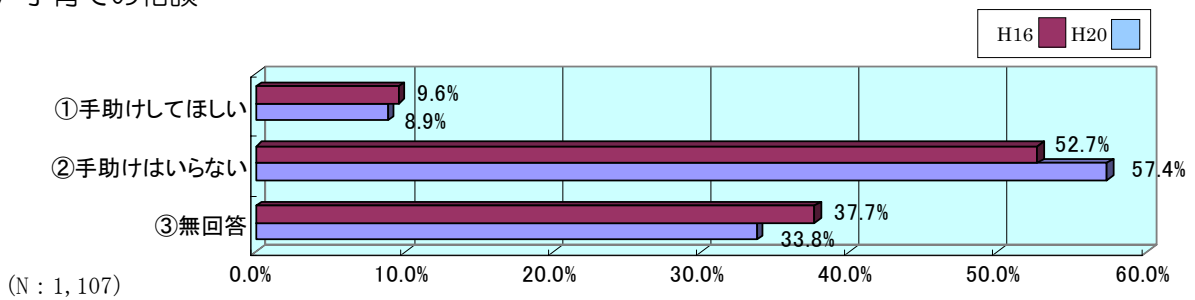


地域福祉計画アンケート調査（市民 18 歳以上）

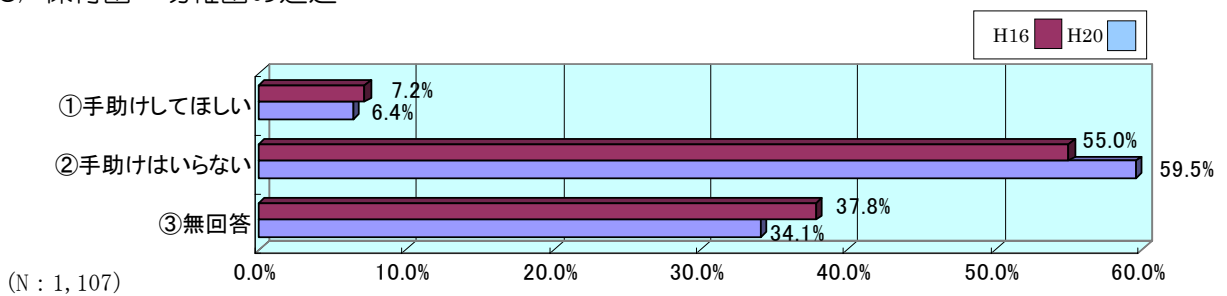
(8) 短時間の子どもの預かり



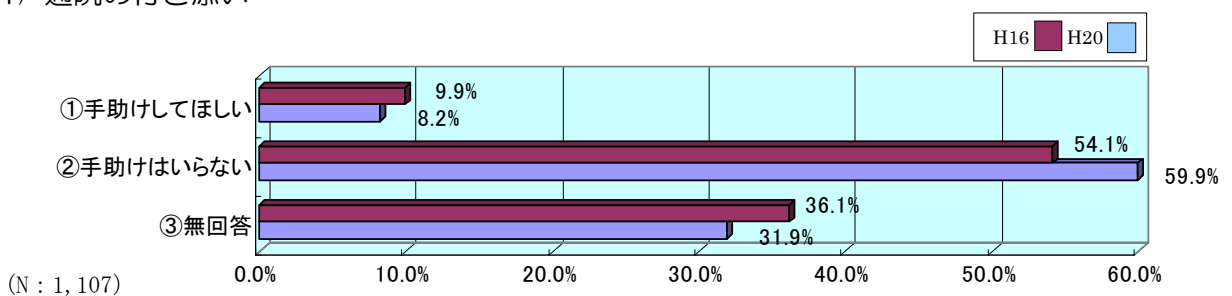
(9) 子育ての相談



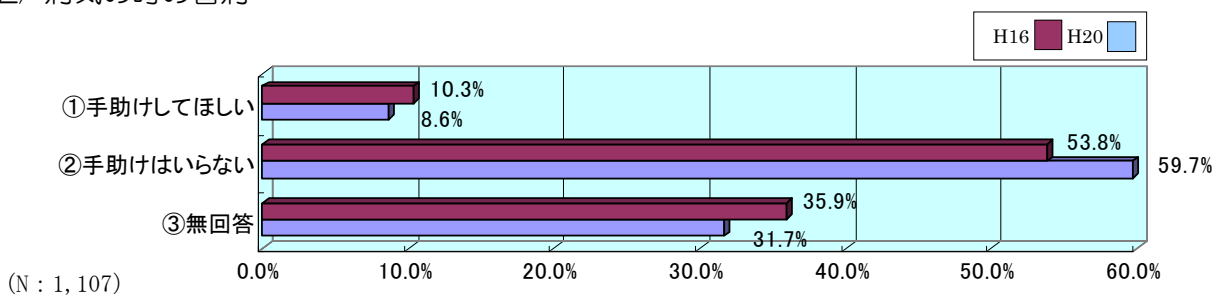
(10) 保育園・幼稚園の送迎



(11) 通院の付き添い



(12) 病気の時の看病



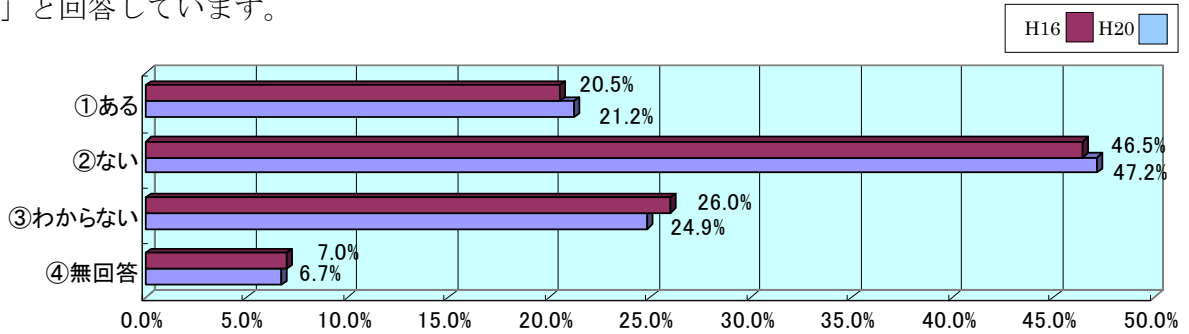
問 14 隣近所で困っている人にできることと隣近所の人に手助けしてもらいたいことの比較

隣近所で困っている人にできることと隣近所に手助けしてもらいたいことを比較すると、「1. 安否確認の声かけ」から「7. 玄関前の掃除や除雪」までは、「手助けしてほしい」と回答した割合を「手助けできる」と回答した割合が大きく上回っていますが、「8. 短時間の子どもの預かり」以降は「手助けしてほしい」と「手助けできる」割合の差が少ないことから、隣近所の助け合い以外の手段が必要であると推測されます。

	前回調査			今回調査		
	(A)	(B)	(A)-(B)	(A)'	(B)'	(A)'-(B)'
	手助けできる	手助けしてほしい	手助けできる人の割合	手助けできる	手助けしてほしい	手助けできる人の割合
①安否確認の声かけ	74.0%	37.0%	37.0%	77.0%	36.9%	40.1%
②話し相手	50.7%	22.8%	27.9%	54.6%	22.3%	32.3%
③悩み事、心配事の相談	31.3%	14.4%	16.9%	32.6%	14.7%	17.9%
④ちょっとした買い物	49.1%	16.6%	32.5%	48.7%	14.1%	34.6%
⑤ちょっとした家事	48.2%	14.2%	34.0%	47.7%	12.0%	35.7%
⑥ごみ出し	51.5%	16.6%	34.9%	54.6%	13.8%	40.8%
⑦玄関前の掃除や除雪	56.4%	27.5%	28.9%	57.5%	25.7%	31.8%
⑧短時間の子どもの預かり	19.4%	9.6%	9.8%	20.6%	8.9%	11.7%
⑨子育ての相談	21.1%	9.6%	11.5%	21.3%	8.9%	12.4%
⑩保育園・幼稚園の送迎	11.9%	7.2%	4.7%	13.6%	6.4%	7.2%
⑪通院の付き添い	14.6%	9.9%	4.7%	15.9%	8.2%	7.7%
⑫病気の時の看病	9.0%	10.3%	-1.3%	9.0%	8.6%	0.4%

問 15 地域に支えられた(助けられた)ことの有無

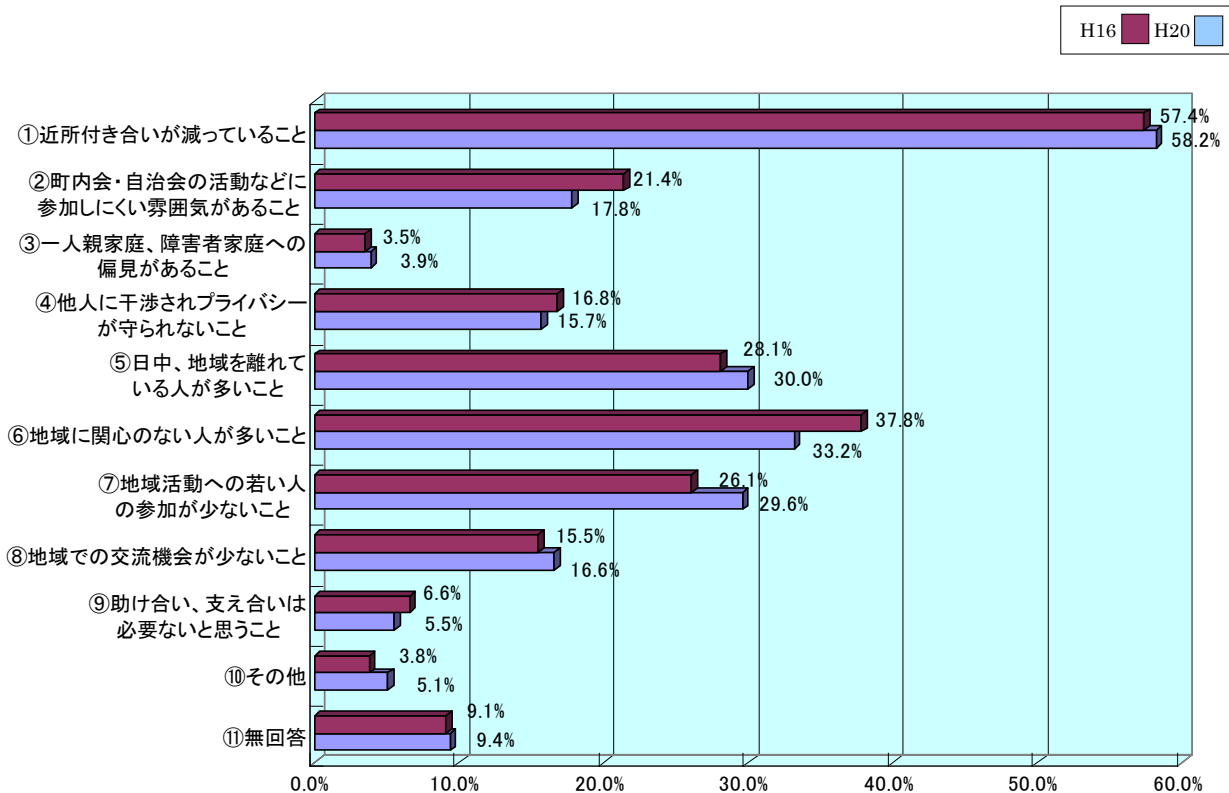
地域に支えられた（助けられた）と感じたことがありますかと尋ねたところ、21.2%が「ある」と回答しています。



(N : 1, 107)

問 17 住みよい地域社会を実現していくうえでの問題(3つまで)

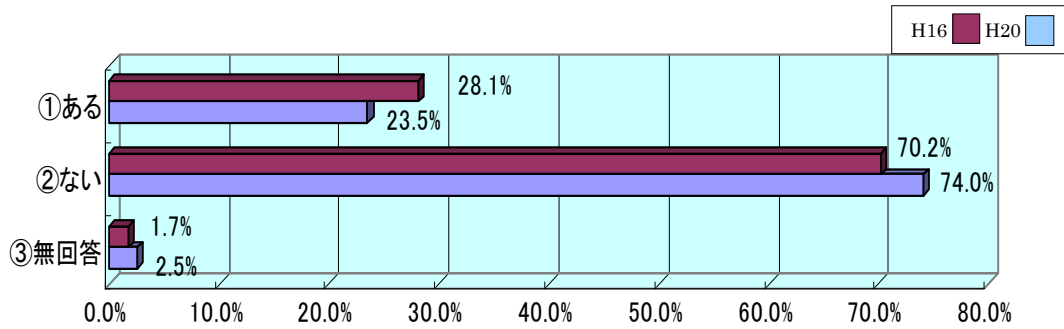
地域の人々がお互いの力を合わせて、住みよい地域社会を実現していくうえで問題となることを見ると、半数以上の 58.2%が「近所付き合いが減っていること」をあげています。



(N : 1, 107)

問 18 日常生活での困りごとの有無

日常生活で困っていることがあるか尋ねたところ、23.5%が「ある」と回答しています。

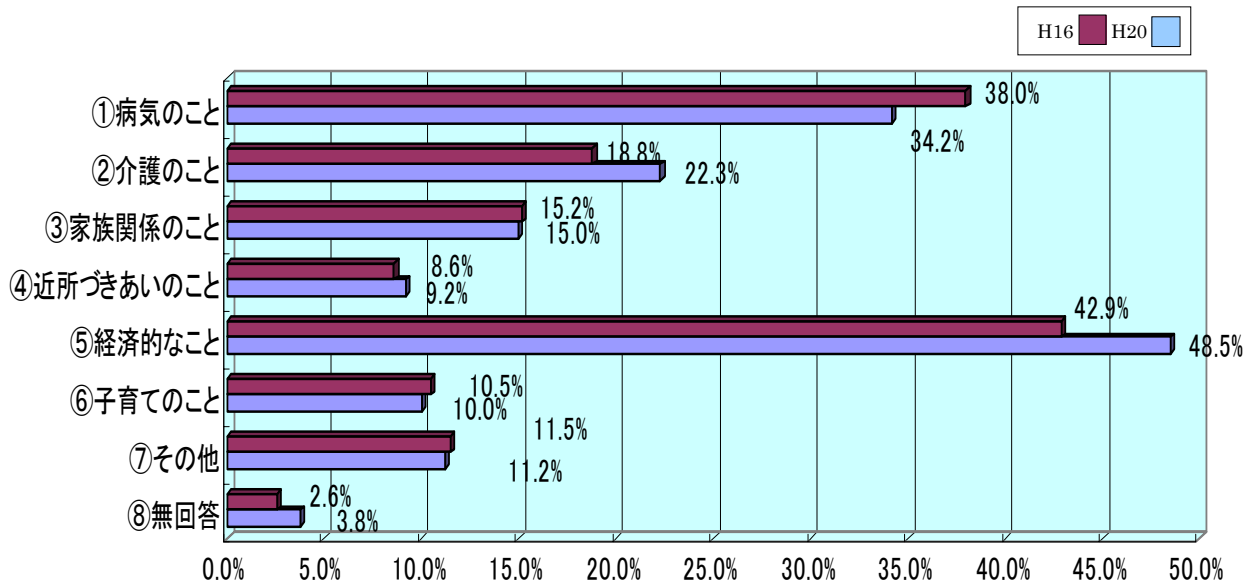


(N : 1, 107)

問 19 日常生活での困りごとの内容(あてはまるものすべて)

日常生活で困っていることがあると回答した 260 人の困っていることを見ると、「経済的なこと」が 48.5%、「病気のこと」が 34.2%と、上位の 2 項目が他の項目と比較して特に多い回答となっています。

また、「介護のこと」と答えた割合が増えています。

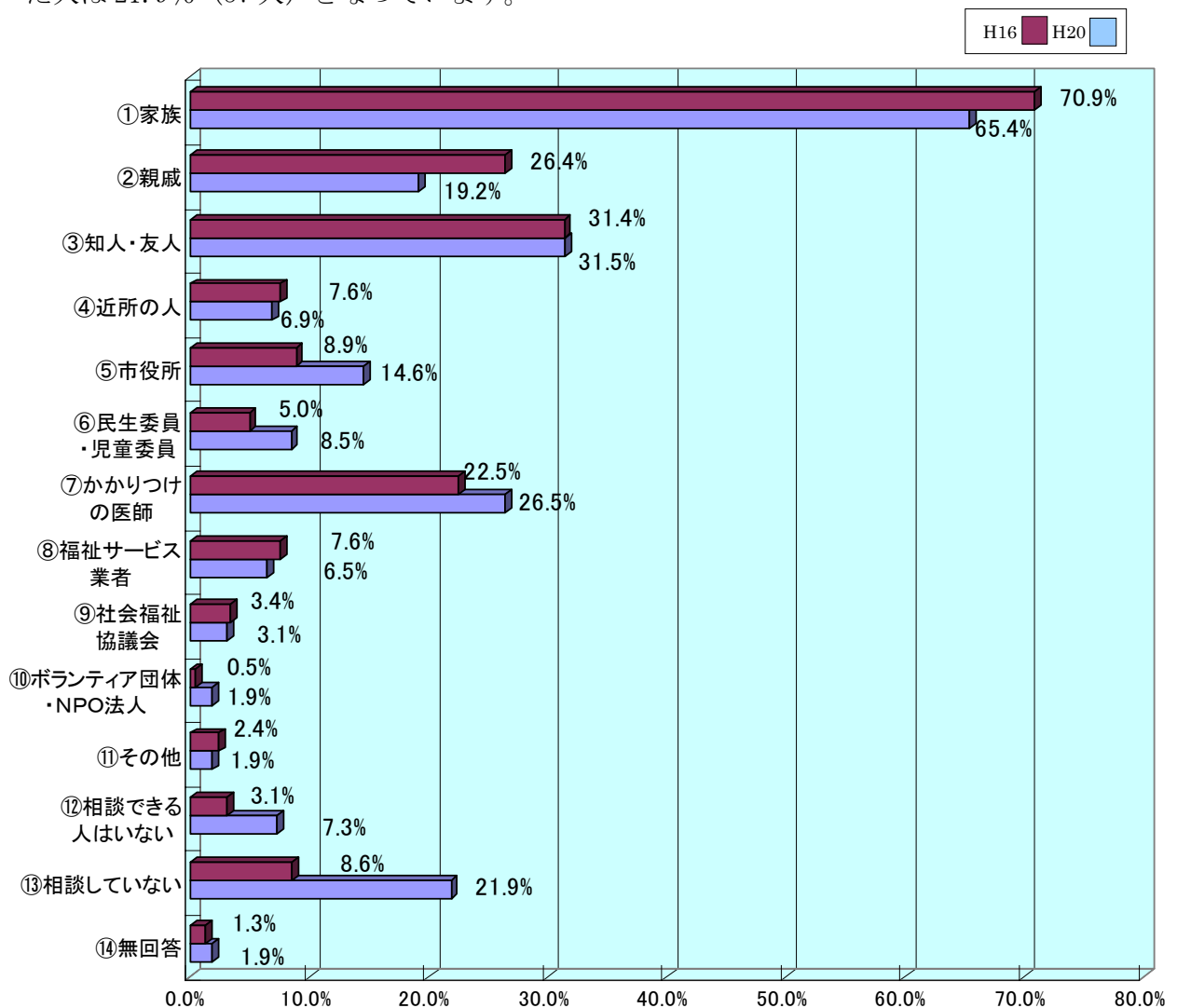


(N : 260)

問 20-1 日常生活の困っていることの相談相手(あてはまるものすべて)

日常生活で困っていることがあると回答した 260 人に対して、困っていることを相談している相手について尋ねたところ、「家族」が 65.4%と 2 番目にあげられた「知人・友人」の 31.5%の 2 倍以上となっています。また、「かかりつけの医師」が、平成 16 年に比べると増えていることが分かります。

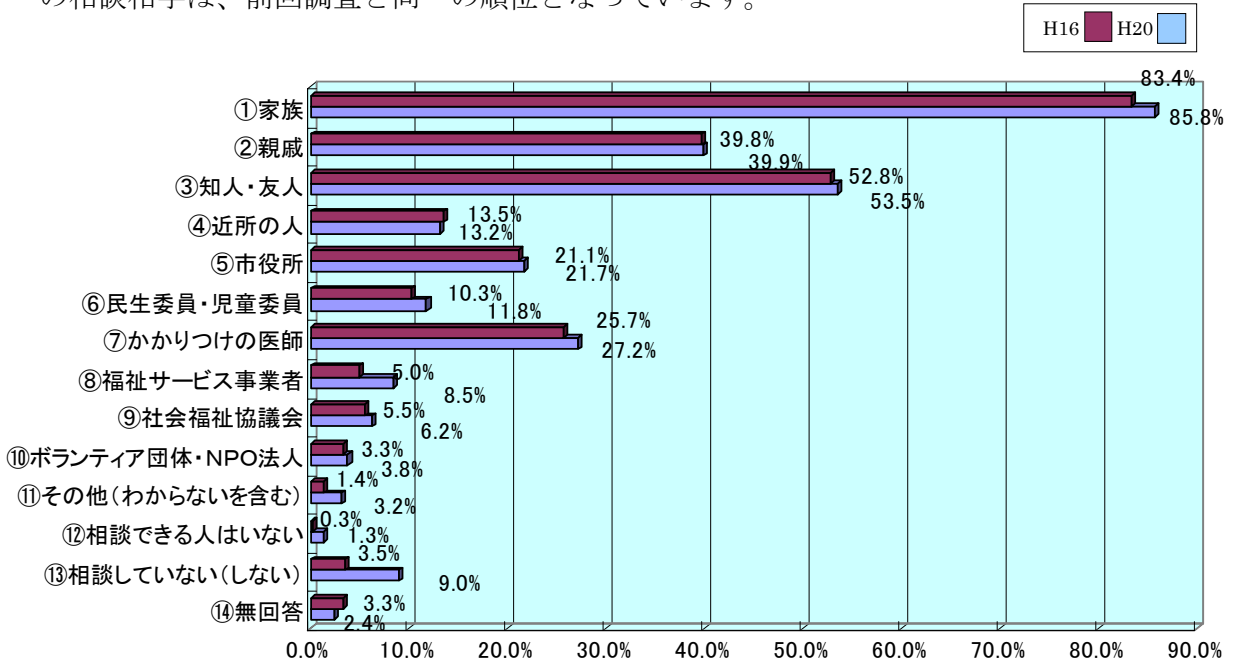
「相談できる人はいない」と回答した人は 7.3%（19 人）、「相談していない」と回答した人は 21.9%（57 人）となっています。



(N : 260)

問 20-2 今後、日常生活の困ったときの相談する相手(あてはまるものすべて)

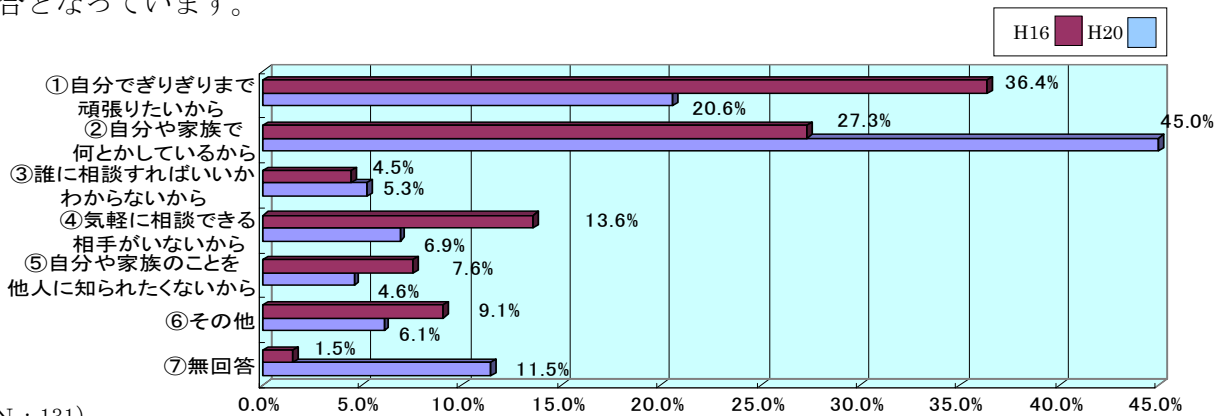
現在困っていることはないと回答した 819 人に対して、今後、日常生活で困ったときに誰に相談するかを尋ねたところ、「家族」が 85.8%で最も高い回答となっています。今後の相談相手は、前回調査と同一の順位となっています。



(N : 819)

問 21 「相談していない(しない)」理由

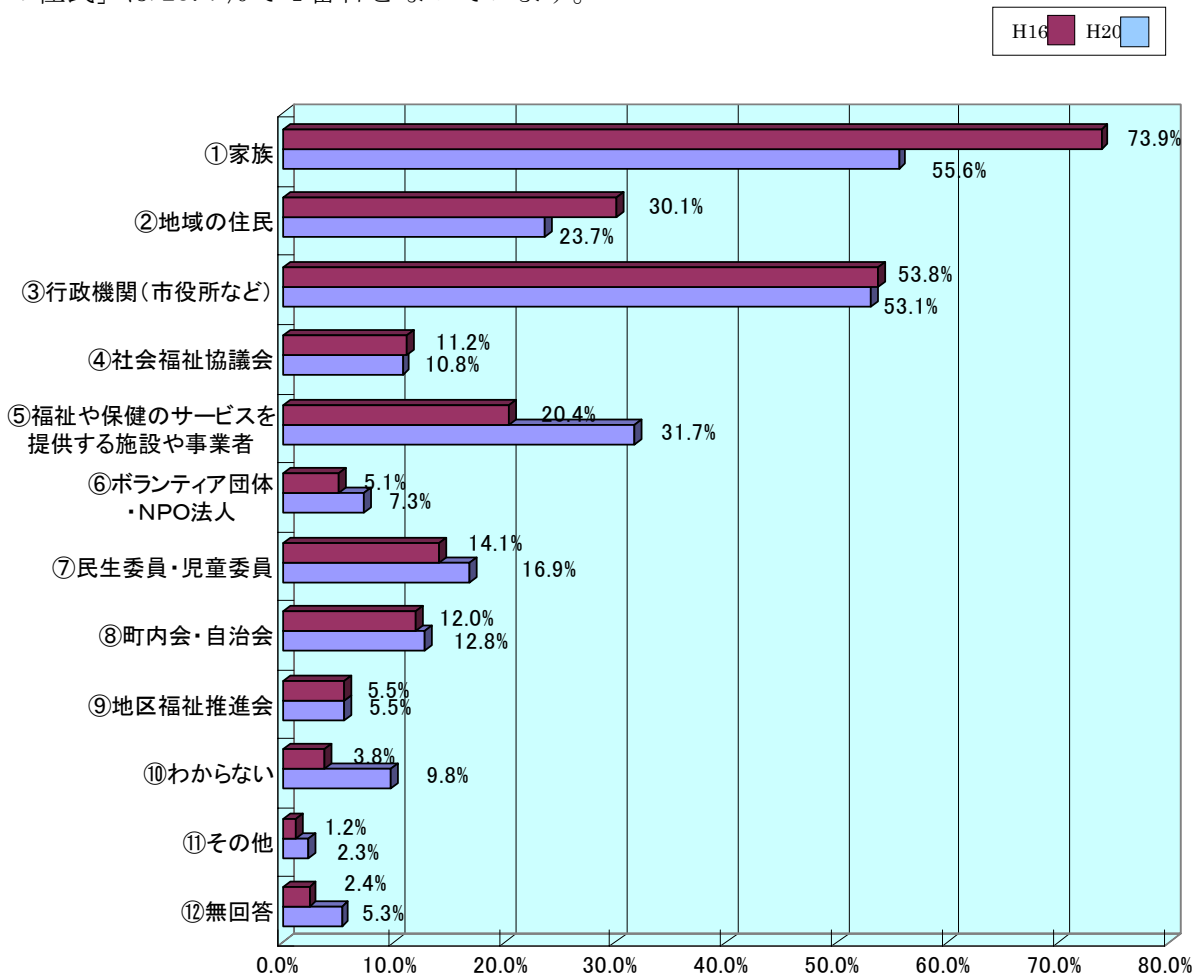
困っていることがあると回答して「相談していない」、「今後、困った時に相談しない」と回答した 131 人にその理由を尋ねたところ、「自分でぎりぎりまで頑張りたいから」、「自分や家族でなんとかしているから」の上位 2 つの理由が 3 番目以降の理由の 2 倍以上の割合となっています。



(N : 131)

問 22 誰もが住み慣れた地域で生活していくために必要な手助けは、誰が(どこが)行うべきか（3つまで）

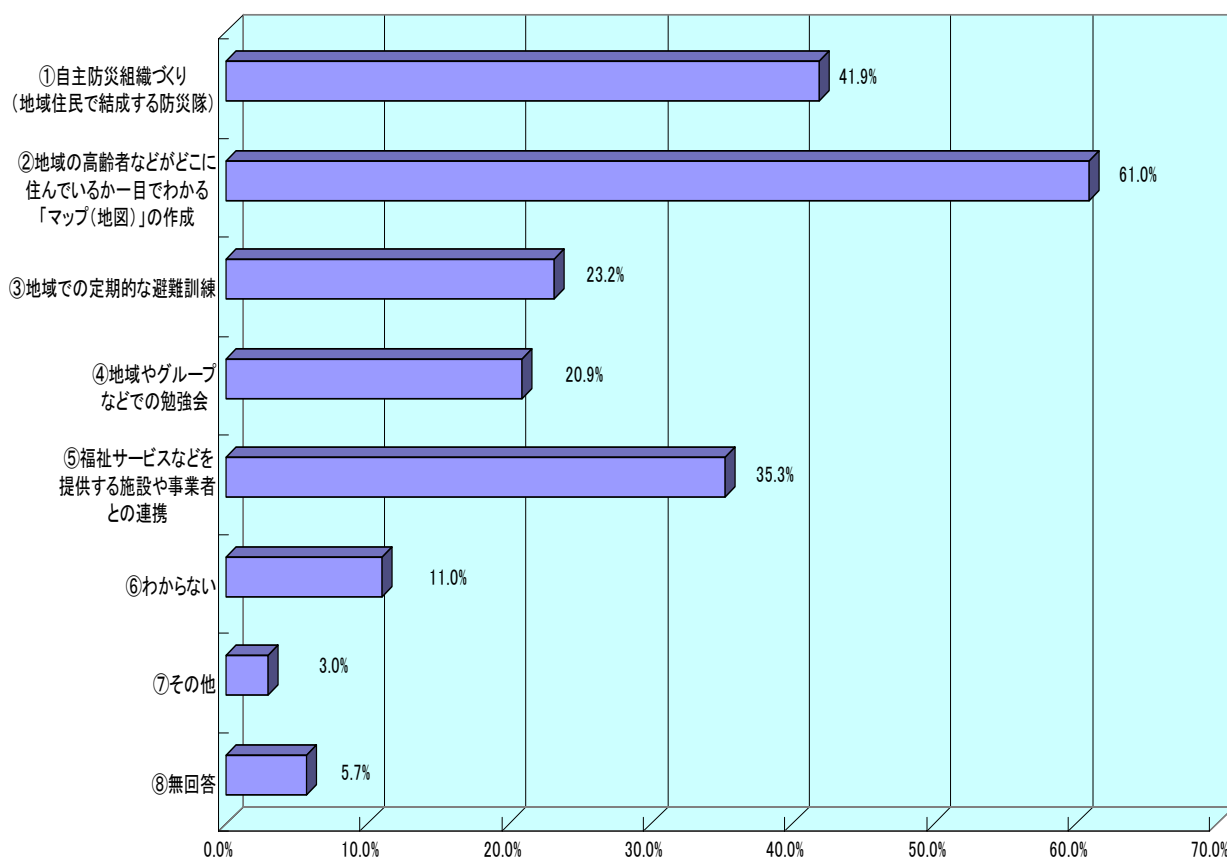
日常生活において困ったことが起きた場合でも、誰もが住みなれた地域で生活していくために必要な手助けは、誰が（どこが）行うべきだと思いますかとの問では、55.6%が「家族」、次いで「行政機関（市役所など）」が53.2%となっています。「福祉や保健のサービスを提供する施設や事業者」は31.7%と前回調査より大幅に増加しています。「地域の住民」は23.7%で4番目となっています。



(N : 1, 107)

問 23 「災害時に住民が支えあう地域づくり」には何が重要だと思いますか(3つまで)

ここ数年、大規模災害が発生しており、市では、災害時の対策について町内会や自主防災組織等との協働に取り組んでいることから、今回のアンケート調査から取り入れた問です。「地域の高齢者などがどこに住んでいるか一目で分かる「マップ（地図）」の作成」が61.0%、次いで「自主防災組織づくり（地域住民で結成する防災隊）」が41.9%となっています。3番目は、「福祉サービスなどを提供する施設や事業者との連携」となっています。



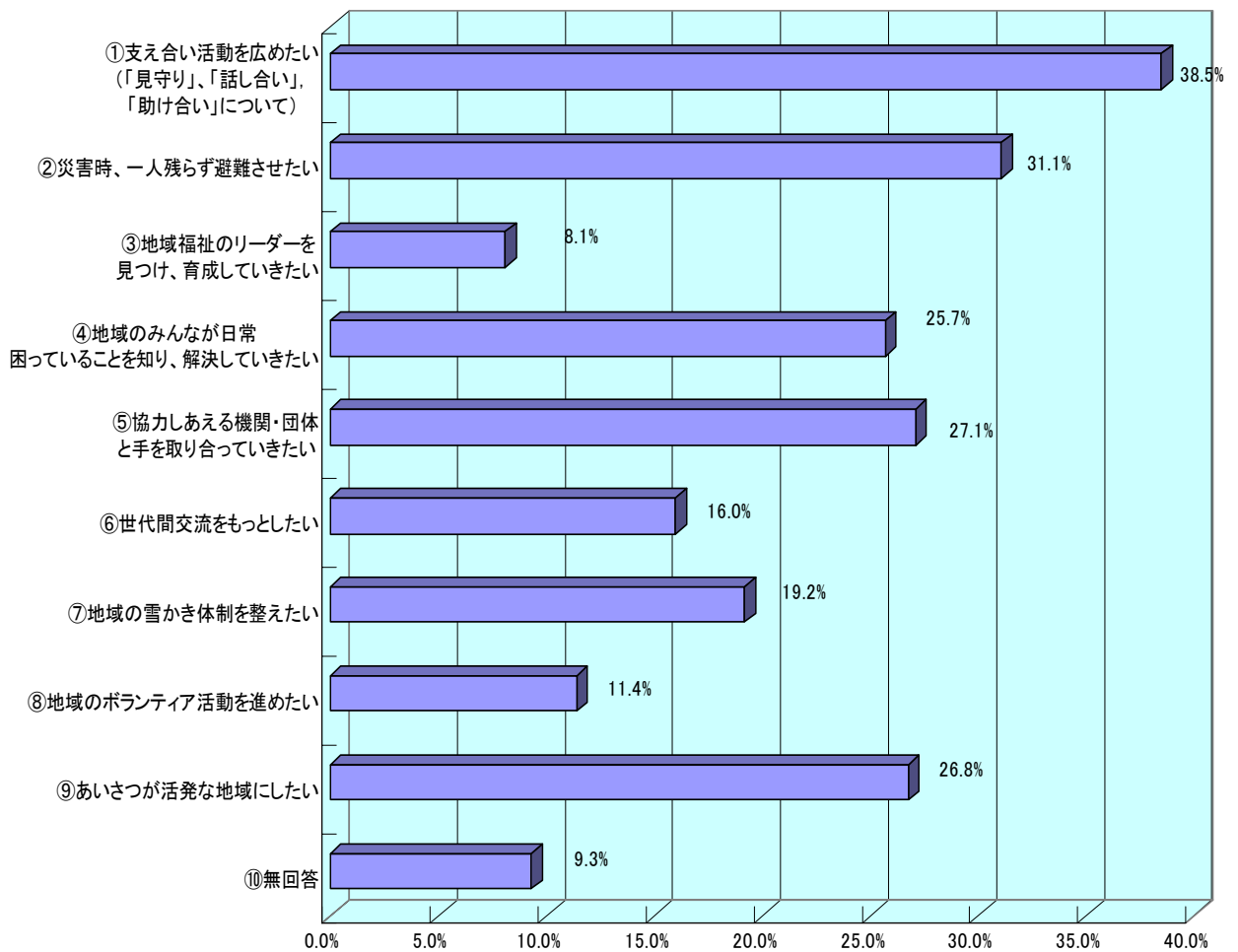
(N : 1, 107)

問 24 「地域福祉の推進」についての話し合いに参加する場合、次の9つのテーマの中でどれを選択しますか(3つまで)

市と市社会福祉協議会は、住民参加により次の9つのテーマでワークショップを行ってきました。

今回のアンケート調査でも、選択するテーマの間を設けたところ、「支え合い活動を広めたい（「見守り」、「話し合い」、「助け合い」について）」が 38.5%、次いで「災害時、一人残らず避難させたい」が 31.1%となっています。

実際のワークショップでも、「支え合い活動を広めたい（「見守り」、「話し合い」、「助け合い」について）」が一番多く選択されたテーマです。



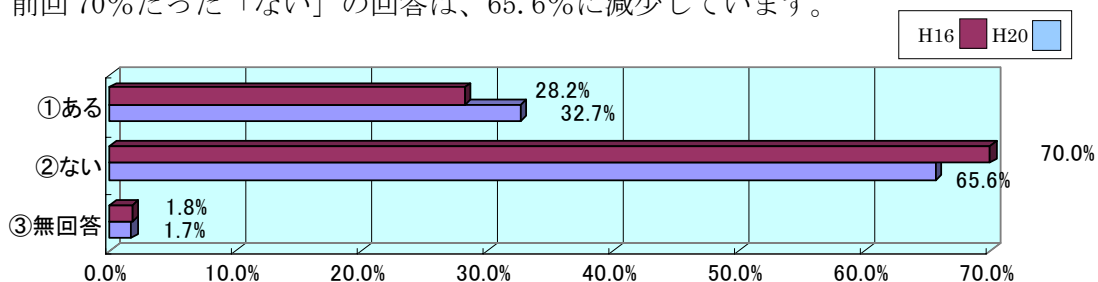
(N : 1, 107)

■ ボランティア活動について

問 25 ボランティア活動の経験

ボランティア活動の経験では、32.7%がボランティア活動の経験が「ある」と回答しており、前回調査より増加しています。

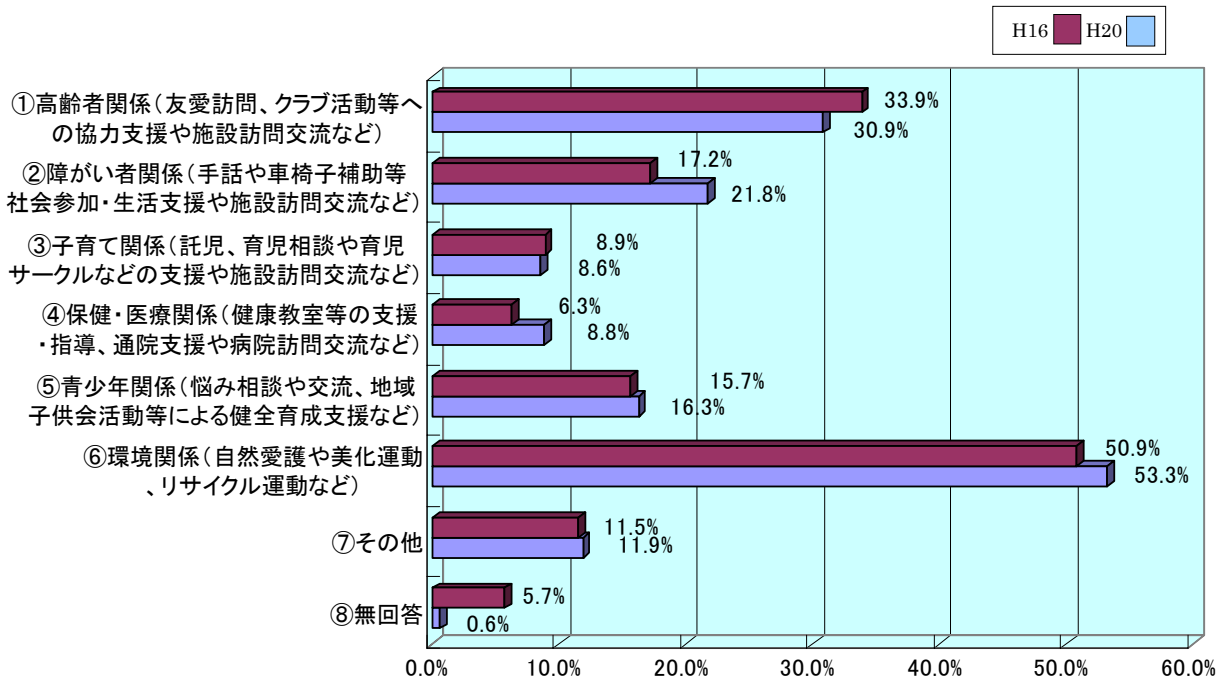
また、前回 70%だった「ない」の回答は、65.6%に減少しています。



(N : 1,107)

問 26 どんなボランティア活動か(あてはまるものすべて)

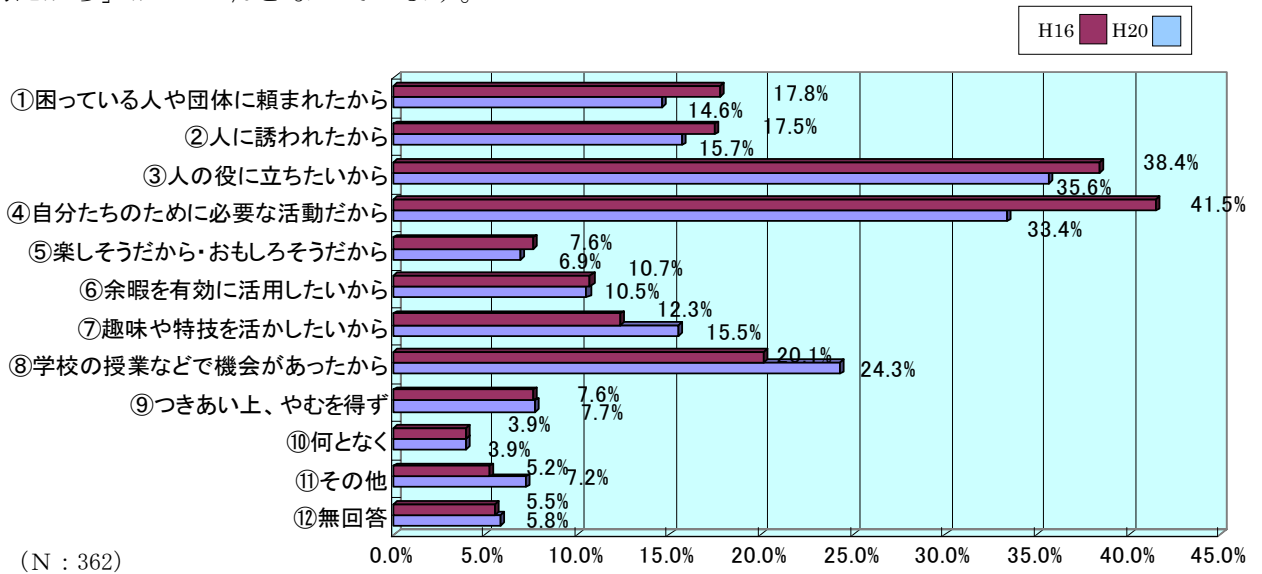
ボランティアの経験があると回答した 362 人にその内容について尋ねたところ、「環境関係」のボランティアが最も多く、次いで「高齢者関係」、「障がい者関係」となっています。



(N : 362)

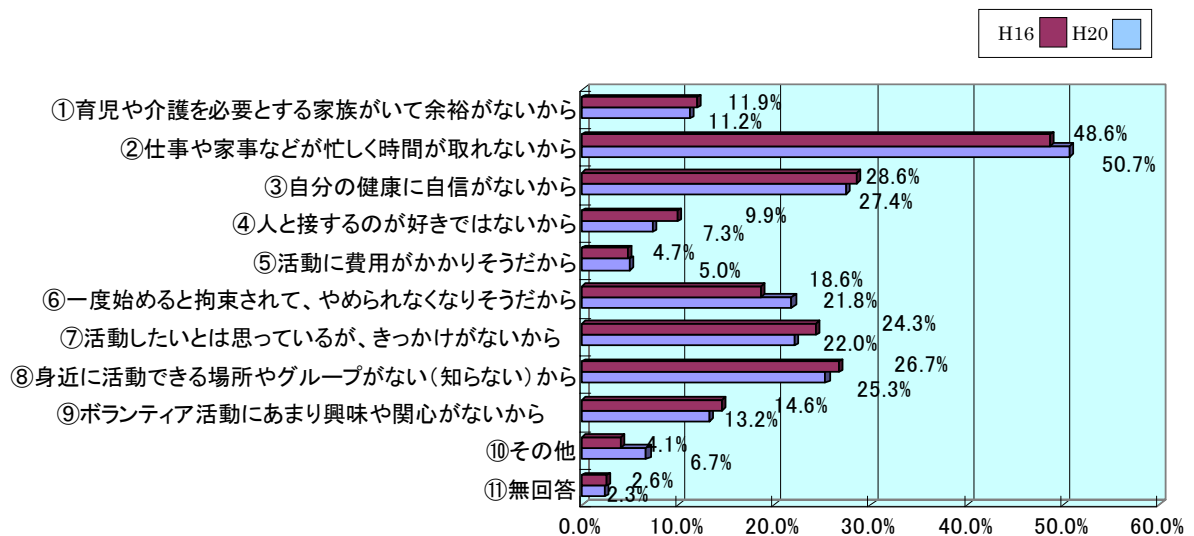
問 27 ボランティア活動に参加したきっかけ(3つまで)

ボランティア活動の経験があると回答した 362 人に、ボランティア活動に参加したきっかけについて尋ねたところ、「人の役に立ちたいから」が 35.5%、「自分たちのために必要な活動だから」が 33.8%となっています。



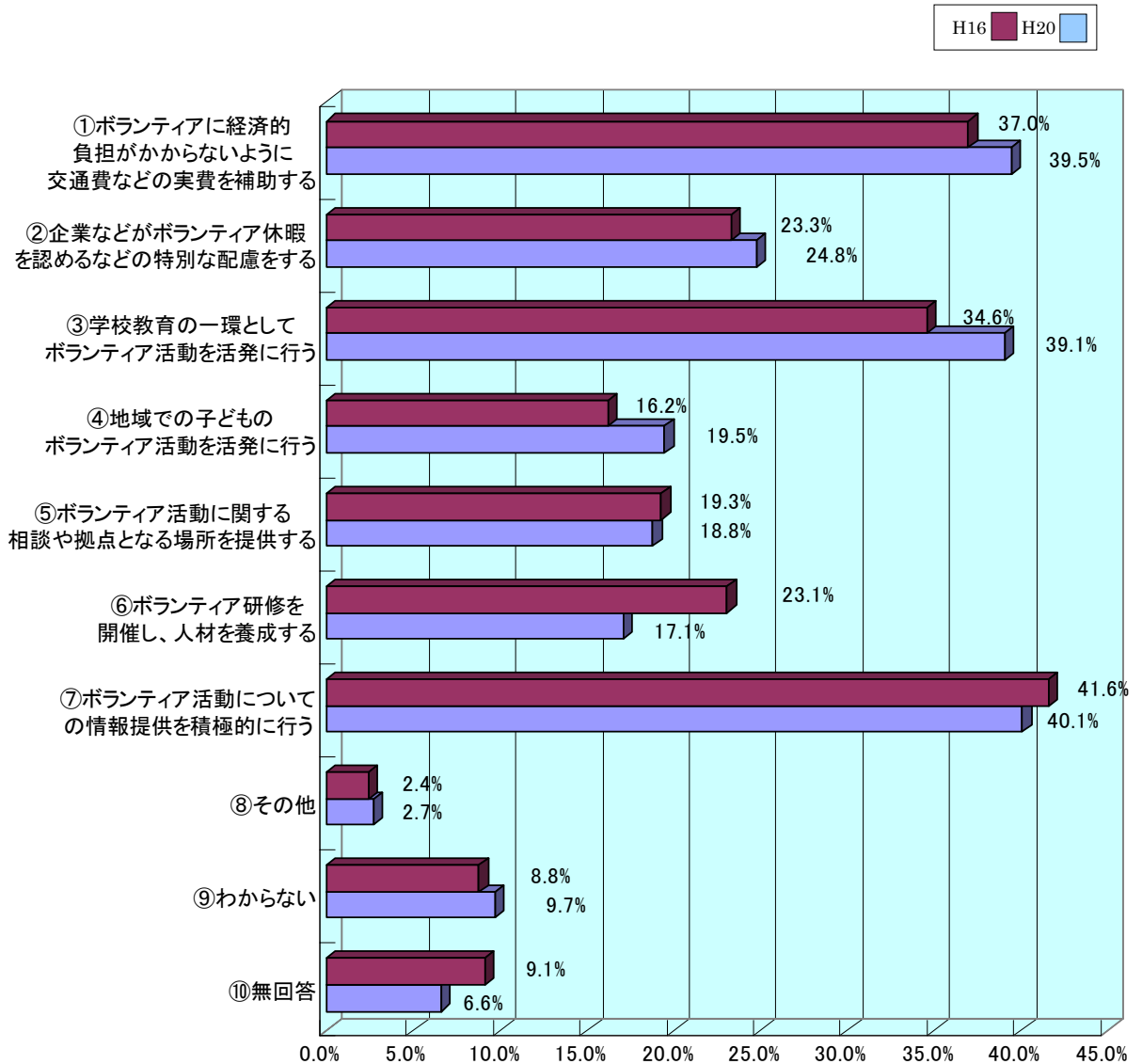
問 28 ボランティア活動に参加したことがない理由(3つまで)

ボランティア活動に参加したことがないと回答した 726 人の理由を見ると、「仕事や家事などが忙しく時間が取れないから」が 50.7%と半数を超えた理由となっています。



問 29 ボランティア活動の輪を広げていくために必要なこと(3つまで)

今後、ボランティア活動の輪を広げていくために、必要なことについて尋ねたところ、多い順に「ボランティア活動についての情報提供を積極的に行う」、「ボランティアに経済的負担がかからないように交通費などの実費を補助する」、「学校教育の一環としてボランティア活動を活発に行う」が上位にあげられています。

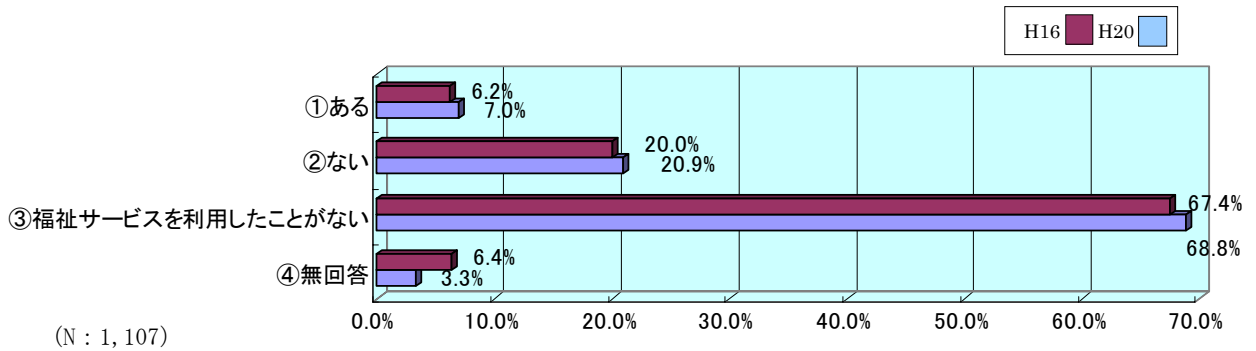


(N : 1, 107)

■福祉サービスにおける権利擁護について

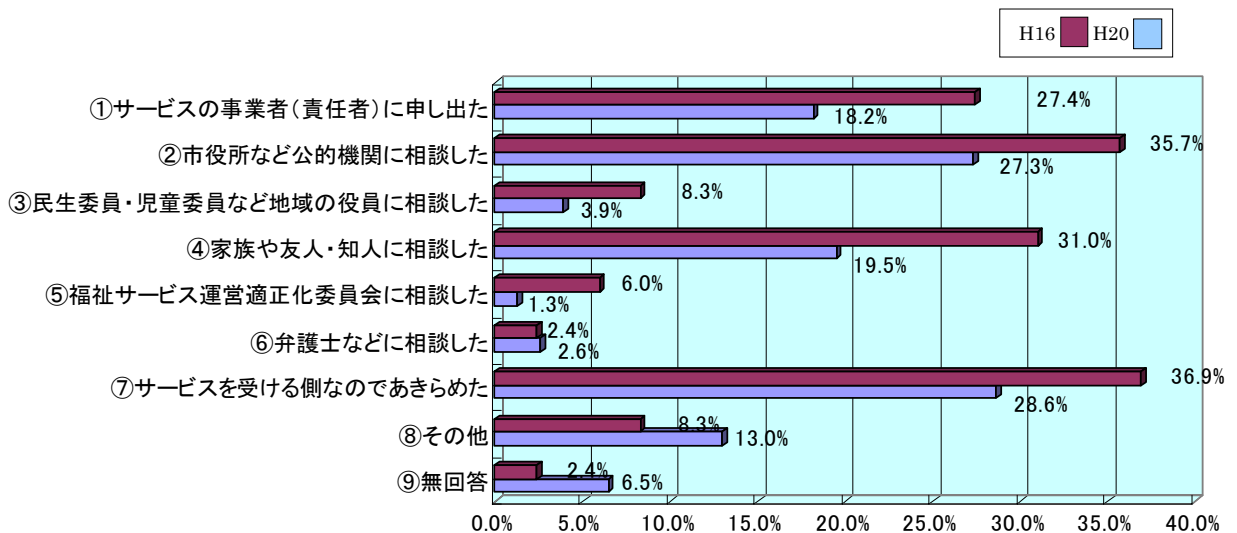
問 30 福祉サービス利用時に説明内容とサービス内容の相違の有無

子育てや高齢者・障がい者などに関する福祉サービスを利用した時に、あらかじめ説明された内容と違っていたり、サービスの内容に不満や疑問を感じたことがあるか尋ねたところ、7.0%（77人）が「ある」と回答しています。



問 30-1 サービス内容に不満や疑問を感じた場合のその後の対応(あてはまるものすべて)

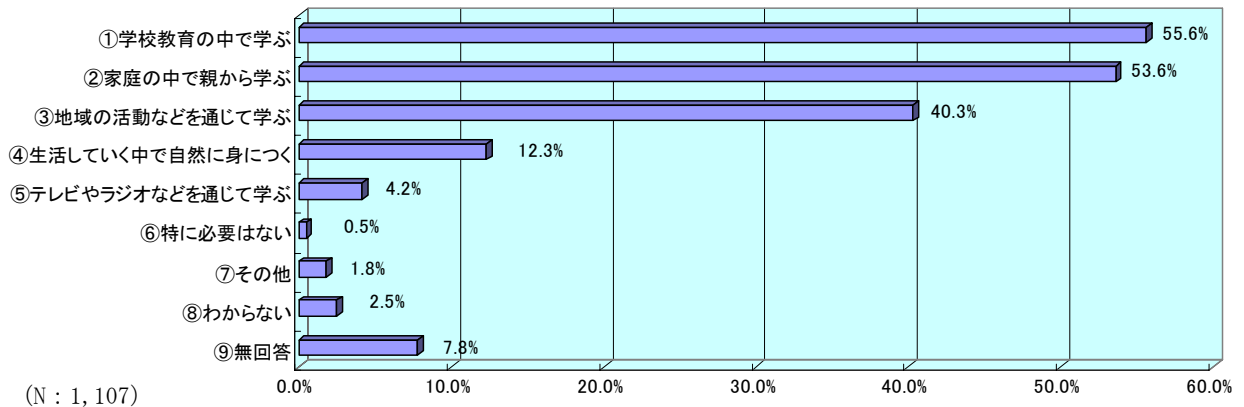
あらかじめ説明された内容と違っていたり、サービスの内容に不満や疑問を感じた場合の対応を見ると、「サービスを受ける側なのであきらめた」が最も多く 28.6%となっています。次いで「市役所など公的機関に相談した」が 27.3%、「家族や友人・知人に相談した」が 19.5%、「サービス事業者（責任者）に申し出た」が 17.1%となっています。



■地域福祉のあり方について

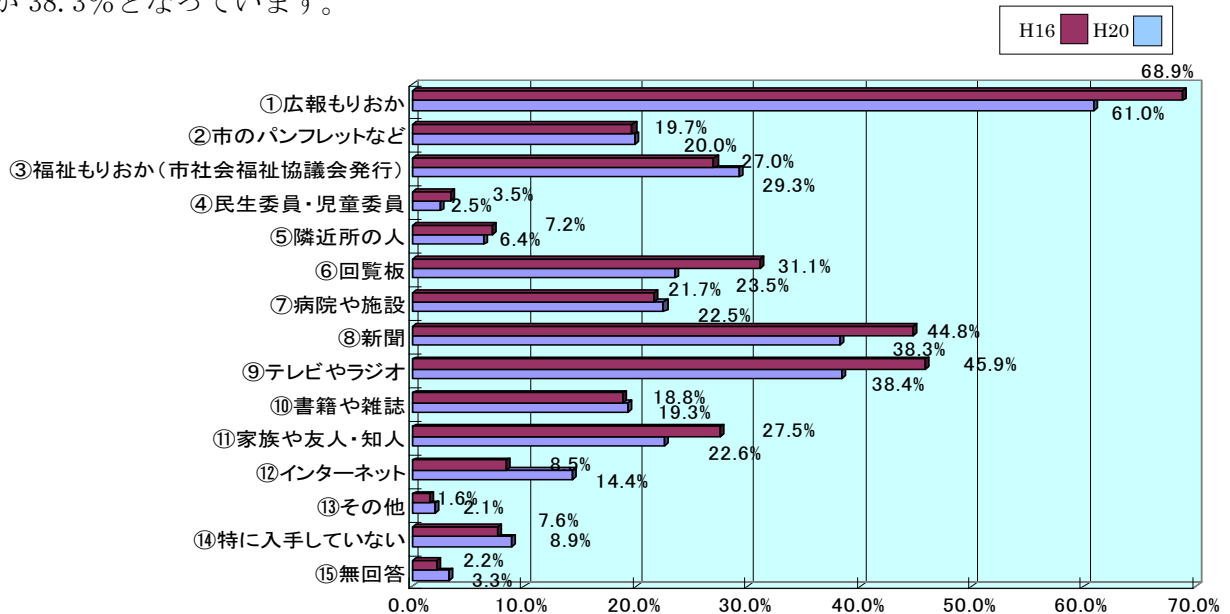
問 32 子どもたちに対する福祉教育について(あてはまるものすべて)

未来を担う子どもたちへの福祉教育についてどのように考えられているかを見ると、「学校教育で学ぶ」が 55.6%と最も多く、次いで「家庭の中で親から学ぶ」が 53.6%、「地域の活動などを通じて学ぶ」が 40.3%となっています。



問 33 福祉や健康に関する情報の入手先(あてはまるものすべて)

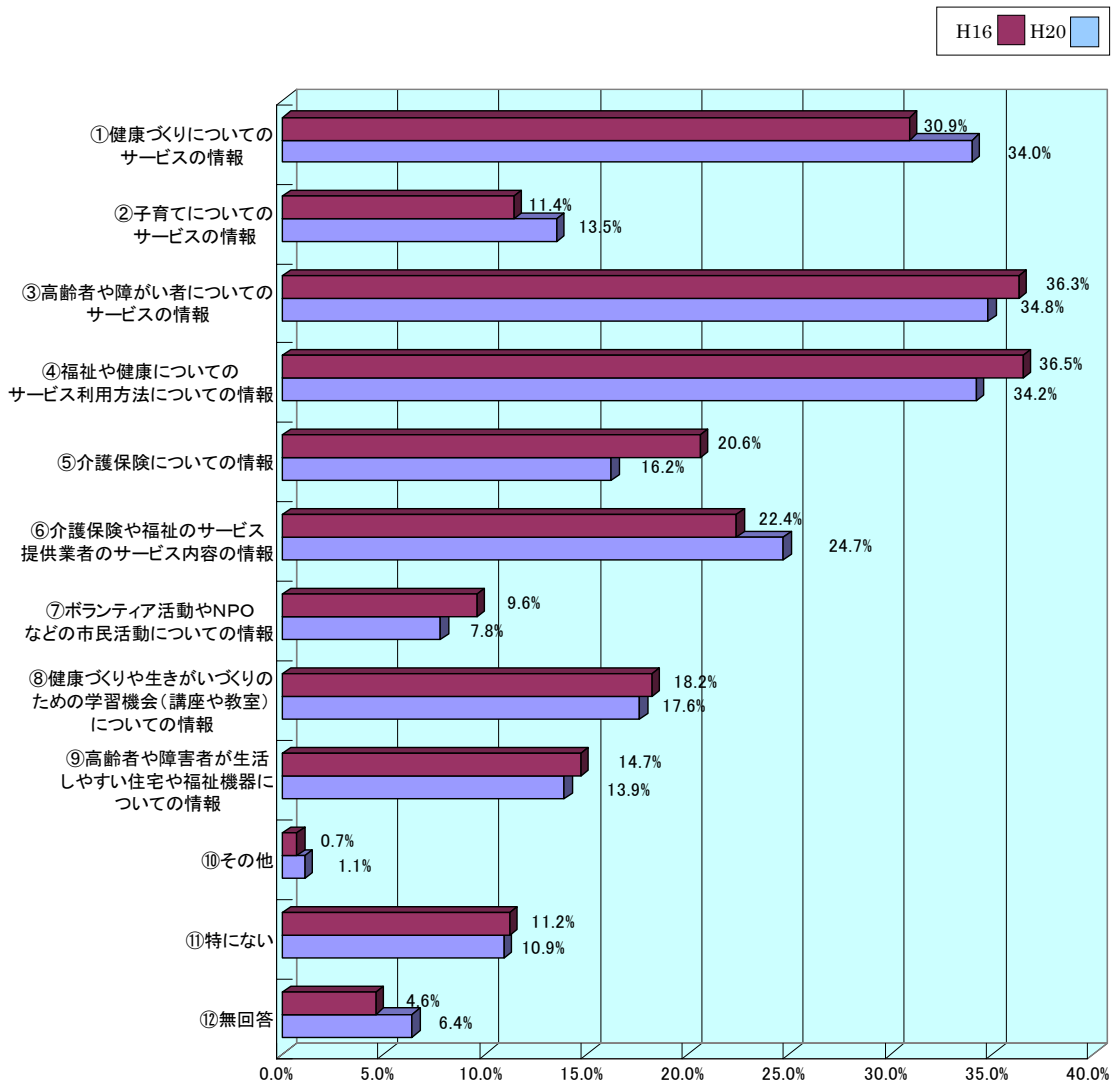
福祉や健康に関する情報を何から入手しているかを見ると、全戸配布が行われている「広報もりおか」が 61.0%と最も多く、次いでマスメディアの「テレビやラジオ」が 38.4%、「新聞」が 38.3%となっています。



(N : 1,107)

問 34 福祉や健康についてどんな情報を知りたいか(3つまで)

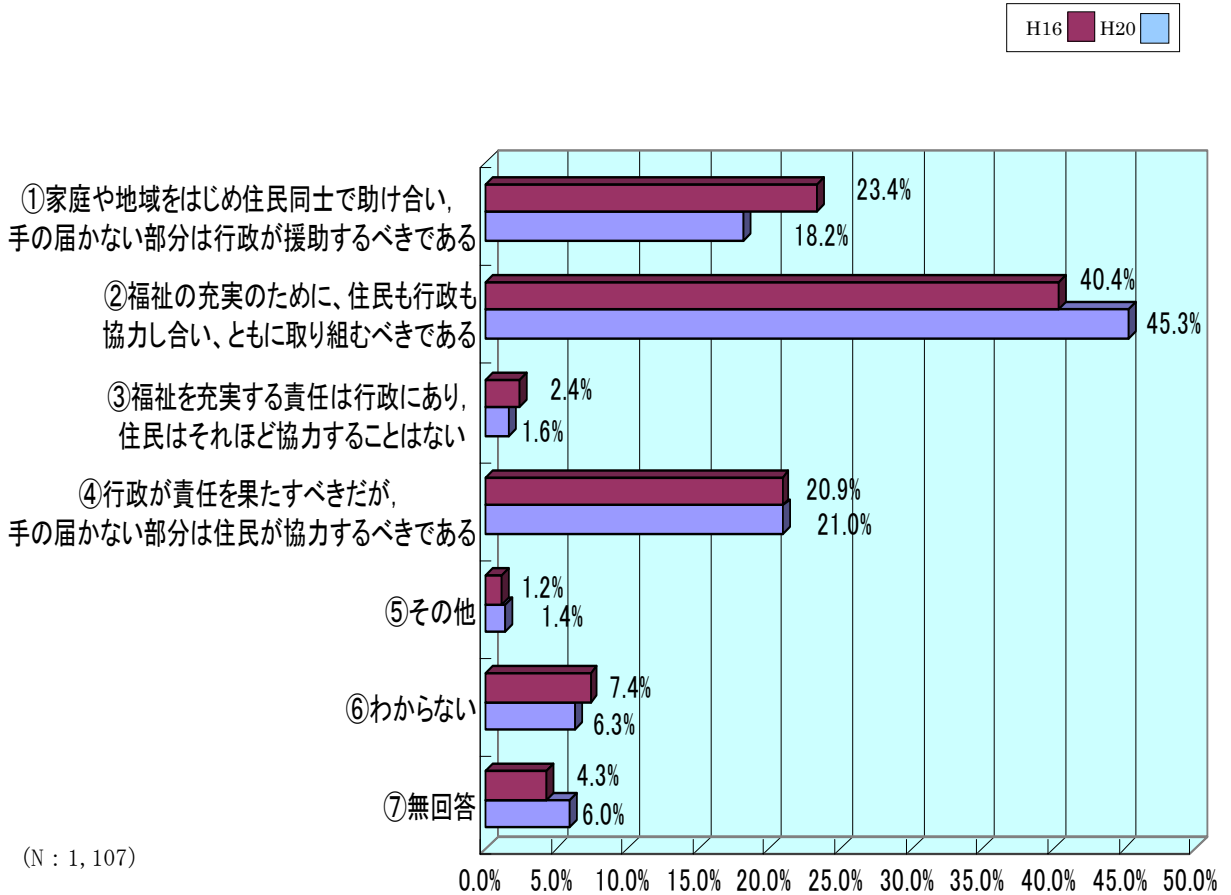
福祉や健康について知りたい情報はどのようなものかを見ると、多い順に「高齢者や障がい者についてのサービスの情報」が 34.8%、「福祉や健康についてのサービス利用方法についての情報」が 34.2%、「健康づくりについてのサービスの情報」が 34.0%と上位 3 位までが約 3 人に 1 人が知りたい情報となっています。



(N : 1, 107)

問 35 地域福祉を充実させていくうえで、住民と行政との関係

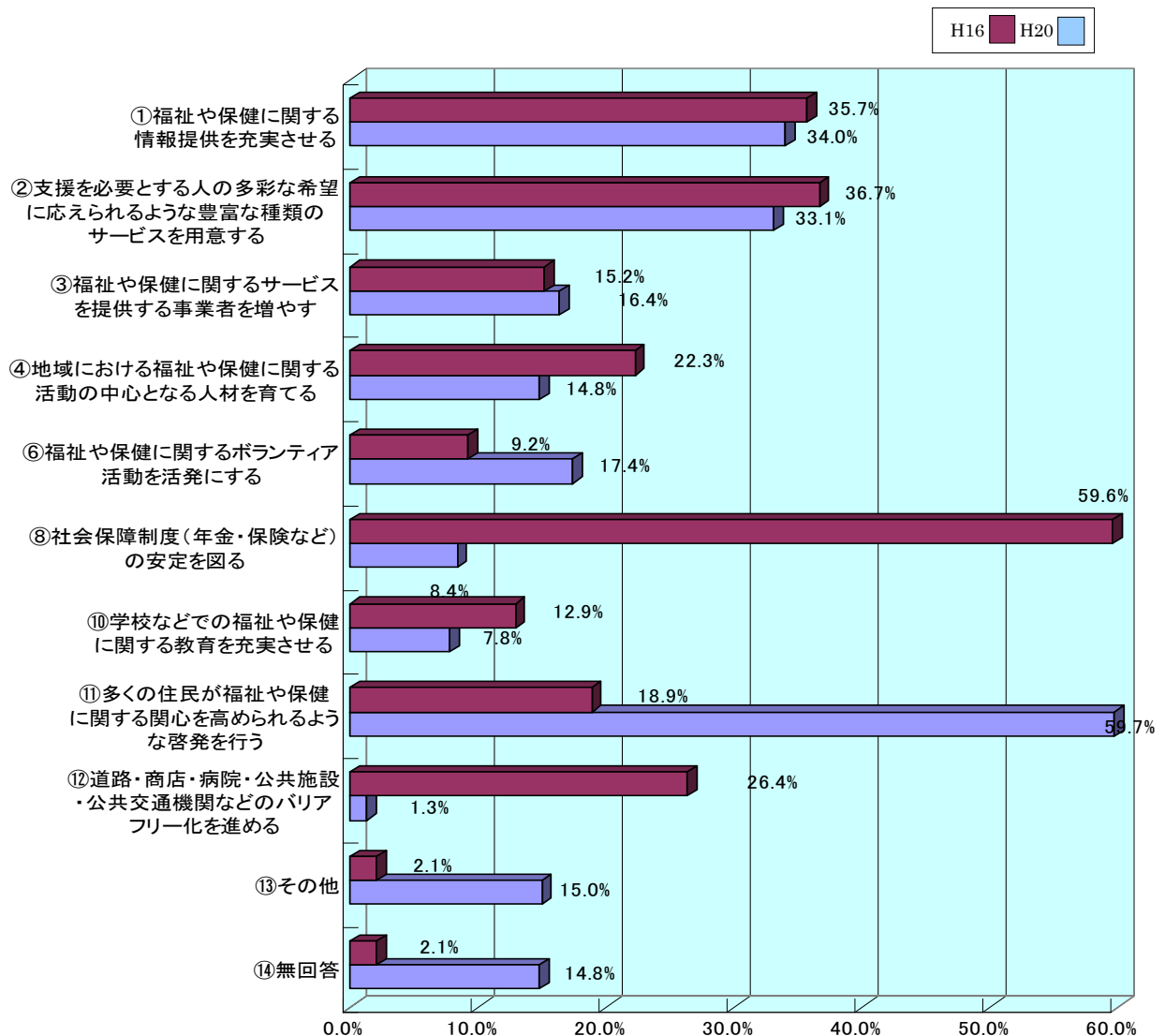
地域福祉を充実させていくうえで、住民と行政との関係はどうあるべきか尋ねたところ、住民と行政が協働する「福祉の充実のために、住民も行政も協力し合い、ともに取り組むべきである」との考えが 45.4%と最も多い回答となっています。



問 36 住みなれた地域で安心して生活していくために必要なこと(3つまで)

誰もが住みなれた地域で安心して生活していくために、どのようなことが必要か尋ねたところ、「社会保障制度（年金・保険など）の安定を図る」を 59.7%があげており、他の項目と比較して圧倒的に多い回答となっています。

次いで福祉サービスの充実である「福祉や保健に関する情報提供を充実させる」や「支援を必要とする人の多彩な希望に応えられるような豊富な種類のサービスを用意する」があげられています。



(N : 1, 107)